

提出日：2022年2月11日

公益財団法人 海外子女教育振興財団
AG5事務局 様

2021 年度 AG5報告書

| | |
|--|------------------------|
| 1. 報告者 | |
| (1) 学校名 | リオデジャネイロ日本人学校 |
| (2) 氏名 | 校長：渡辺 稔 研究主任：吉村正浩 |
| 2. 実施体制 | |
| 本校：校長—研究主任—教員（サンパウロ日本人学校と連携した） | |
| 3. テーマ | |
| ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発 | |
| 4. 目的と概要 | |
| 目的：ICTを活用した遠隔合同研修会・遠隔授業を通して、教育の質を向上させるためのテーマ設定・研修方法・ICTの効果的活用法を開発する。 | |
| 2019年度より、文部科学省のAG5（高度グローバル人材育成拠点事業）の研究委託を海外子女教育振興財団より受け、研究テーマ「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」に3年間取り組んだ。本年度は、3年目の最終年度である。 | |
| ＜概要＞ | |
| 研究主題：「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」（「高度グローバル人材の育成」をめざし、研究連携協力校であるサンパウロ日本人学校と話し合っ令和2年度に決定し、研究実践を進めた。） | |
| 実践内容：2019年度からの2年間の研究実践を活かし、本年度は、遠隔教育（遠隔授業、遠隔研修）に関する研究実践を進めるとともに、その成果をAG5事務局や研究チームと協力して、まとめ、公表できるようにしてきた。 | |
| 具体的には、研究連携協力校のサンパウロ日本人学校と低学年部会、高学年部会、中学校部会で話し合い、遠隔合同授業を進め、研究授業を行った。また、本校では、普段の授業や学校行事、他の学校との交流などにICTを活用した遠隔教育を実施した。これらの実践を通して、課題を発見し、話し合い、解決法を考え、工夫や改善をしてきた。 | |
| 成果と課題： | |
| ・子どもたちが、相手の違いを認め、多様性を受け入れ、コミュニケーションをとりながら、一緒に活動する体験をしたことで、遠隔授業以外でも相手意識をもって行動できるようになってきた。ICT活用能力も向上した。 | |
| ・ICTを活用した遠隔教育環境を整備し、遠隔教育に関するノウハウを蓄積し、他の学校でも活用できるように公表することができた。 | |
| 展望：3年間の研究実践の成果を活かし、サンパウロ日本人学校等との遠隔教育を日常的に続けていく。さらに、遠隔授業やそれ以外でも、ICTを活用して教育の質を高めるとともに、多様性を認め合い、学校内外の人との柔軟で豊かなコミュニケーションや協働する機会を多くすることで、高度グローバル人材育成を目指していきたい。 | |

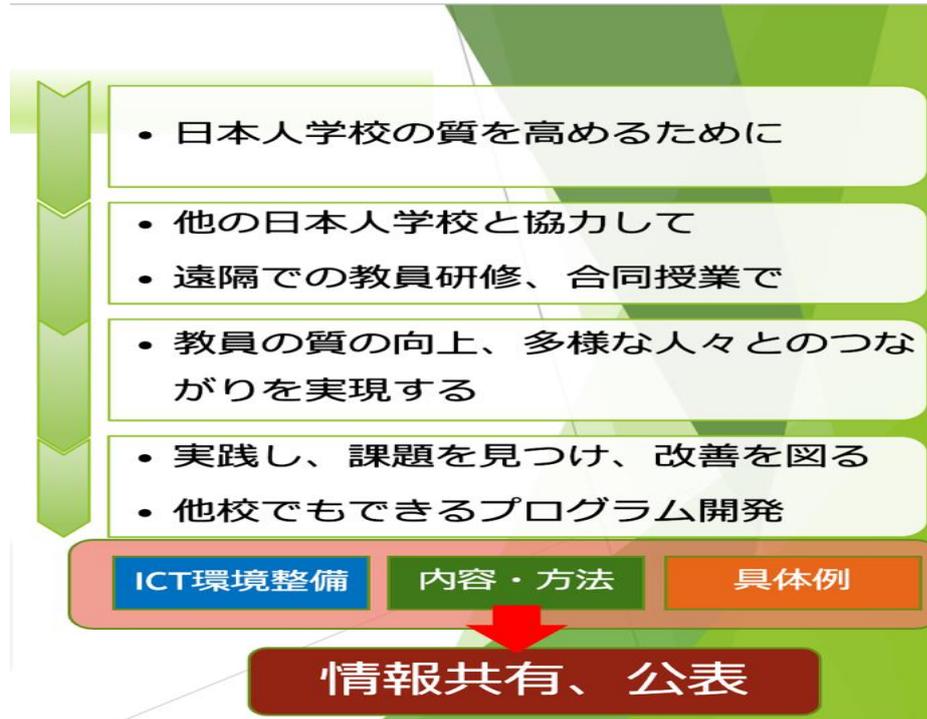
＜研究の目的＞

このAG5(高度グローバル人材育成拠点事業)のテーマ「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」には、2019年度より、サンホセ日本人学校(コスタリカ)とアグアスカリエンテス日本人学校(メキシコ)、サンパウロ日本人学校(ブラジル)とリオデジャネイロ日本人学校(ブラジル)がそれぞれ連携協力校となり、4校で協力し、AG5事務局と研究チームのサポートを受けながら、3年間取り組んだ。

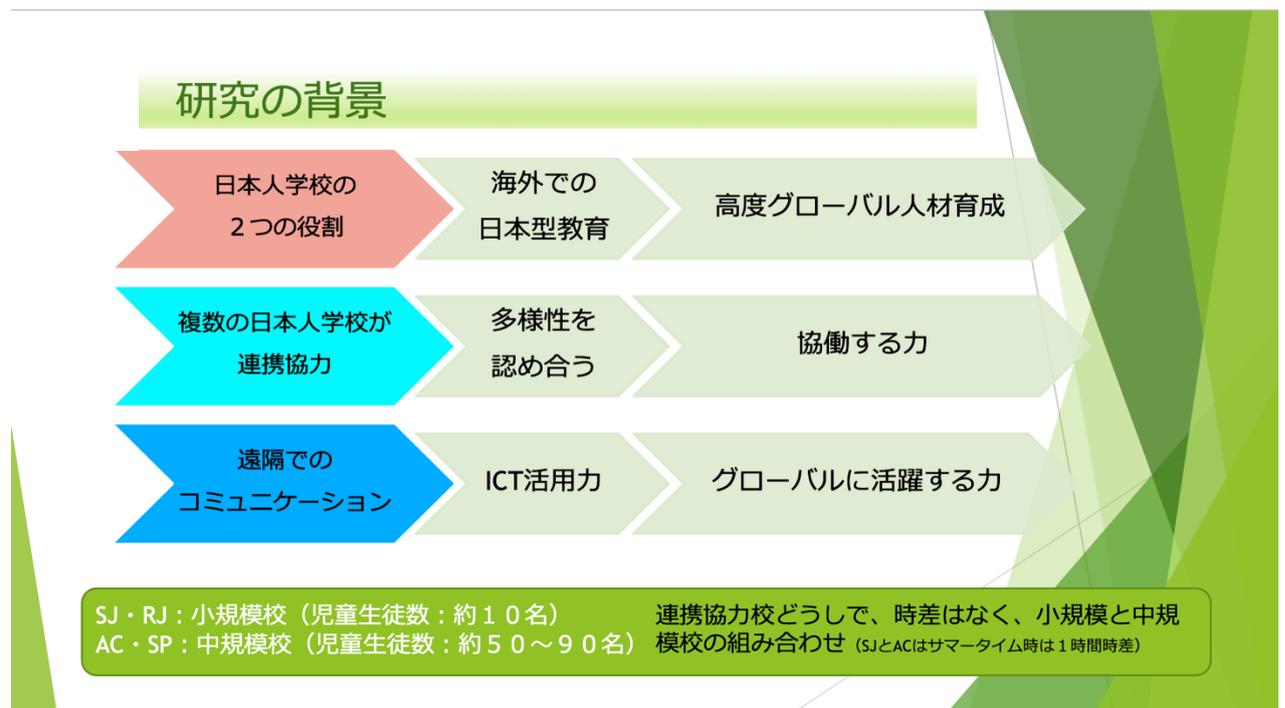


この研究の目的は、日本人学校の質を高めるために、他の日本人学校と協力して、遠隔での教員研修や合同授業を行い、教員の質の向上、児童生徒の多様な人とのつながりを実現するための実践から、課題を見つけ、改善を図り、その成果を他校でもできるプログラム開発をすることである。

そのために、研究の最終年度、3年目の今年度は、「ICT環境整備」「遠隔授業や遠隔研修の内容や方法」「具体例」を情報共有し、公表することに重点をおいた。



<研究の背景>



この研究の背景としては、「日本人学校の2つの役割」「複数の日本人学校が連携協力すること」「遠隔でのコミュニケーションの重要性」が挙げられる。

日本人学校は、2つの大きな役割をもっている。「海外での日本型教育」を実施する教育機関であり、日本で受けてきた教育を引き継ぐことや海外から日本にスムーズに戻るためと日本人として生きる力を育むために、海外でも日本と同じ内容や質の教育をすることが1つの役割である。そして、2つ目の役割である「高度グローバル人材の育成」が、より求められるようになってきた。海外にあり、多様で豊かな自然、文化や社会の中にあるということや児童生徒や保護者も多様であるということを活かして、世界で活躍する人材の育成が期待されている。

次に、「複数の日本人学校が連携協力」する必要性である。1つの日本人学校でも工夫された豊かな教育が行われているが、他の日本人学校と連携協力することで、より多様性を認め合い、協働する体験ができ、豊かな学びが期待される。

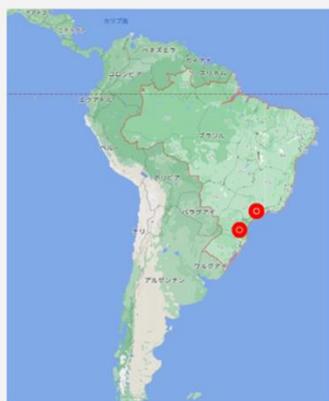
そして、ICTを活用した「遠隔でのコミュニケーション」をすることで、ICT活用能力やグローバルに活躍する力を高めることにつながると思われる。

研究の背景 < 町の様子 >

サンパウロとリオデジャネイロ（ブラジル）



約500km
東京-大阪間くらい
時差なし



研究の背景 < 各校の様子 >

サンパウロ日本人学校 (SP)



中規模
小: 76名
中: 13名

郊外、標高730メートルの丘、約12万平方メートルの自然豊かな広い敷地（コーヒー園、釣り堀、バナナ園など）
中学3年はいない。

リオデジャネイロ日本人学校 (RJ)



小規模
小: 12名
中: 1名

海と山、街に近い。
狭い敷地、体育館で全員で遊ぶ
小学部：1年2名、2年2名、3年2名、4年1名、5年3名、中学部：1年1名



AG5 在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業

テーマ6 「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」

サンパウロ日本人学校・リオデジャネイロ日本人学校

研究主題 「多様性を受け入れ、
柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、
協働できる子どもの育成」

研究主題：「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」

* 「高度グローバル人材の育成」をめざし、サンパウロ日本人学校と話し合って令和2年度にこの研究主題を決定した。

サンパウロ日本人学校は、本校と同じブラジルにあり、時差はなく、約500km 離れ、学校やその周りの様子等に大きな違いがある。

この2つの学校の特性を活かしながら、連携協力して、研究を進めてきた。

リオデジャネイロ日本人学校
サンパウロ日本人学校
合同研究主題

多様性を受け入れ
柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち
協働できる子どもの育成

遠隔教育

高度グローバル人材育成拠点事業
「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」

AG5テーマ6に
4校で取り組む

本校学校教育目標「自分を磨く子」

自分の可能性を信じ、直面する課題に挑戦しながら成長しようと努める学校づくり

小規模校

在外教育施設

リオデジャネイロ

5. 今年度実施した取組み

- 4月8日 新派遣教員顔合わせ（オンライン）
職員会議・オリエンテーション、研修会（オンライン）
- 9日 学校紹介、職員会議（オンライン）
- 12日 着任式、始業式、入学式（オンライン）
- 13日 ハイブリッド授業開始（対面授業とオンライン授業）開始
運営委員会（オンライン）
- 14日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流準備（一部オンライン、総合的な学習の間）
職員研修（オンライン、本校研究について）
- 21日 絵しりとり体験（オンライン、総合的な学習の時間）
- 23日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
5:45～16:45 SP・RJ 合同研修会
（*以下、サンパウロ日本人学校を「SP」、リオデジャネイロ日本人学校を「RJ」と略記する）
- 27日 PTA 総会、子弟教育会総会（オンライン）
- 28日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流の自己紹介カード作成（総合的な学習の時間）
- 5月4日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流の自己紹介カードをポルトガル語で作成（総合的な学習の時間）
運営委員会（オンライン）
- 5日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流の自己紹介カードをポルトガル語で練習（ポルトガル語の授業）
- 6日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流の自己紹介をポルトガル語で練習（朝の活動）
- 7日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流のオンライン・クイズ練習（朝の活動の時間）
- 10日 PTA 代表委員会、個人懇談（オンライン）
- 11日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流のオンライン・クイズ練習（朝の活動の時間）
- 12日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流リハーサル
教員で、リオデジャネイロ日本語モデル校準備として、オンライン掲示板（Padlet）研修
- 13日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流練習
- 14日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流準備
- 15日 リオデジャネイロ日本語モデル校交流会（オンライン）約60名4グループ
- 21日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
- 26日 SP・RJ「サンパウロ調べ」（低学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 6月1日 運営委員会（オンライン）
- 2日 SP・RJ「サンパウロ調べ」（低学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 4日 SP・RJ 低学年部会合同会議
- 8日 PTA 代表委員会（オンライン）
- 9日 SP・RJ「サンパウロ調べ」（低学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）

- 6月11日 SP・RJ 低学年部会合同会議
 16日 SP・RJ 高学年部会合同会議、SP・RJ 中学校部会合同会議
 SP・RJ「サンパウロ調べ」（低学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
 SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
 18日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
 23日 SP・RJ 高学年部会合同会議
 28日 一時帰国授業とオンライン授業（ハイブリッド授業）開始
 SP・RJ 低学年部会合同会議
 29日 SP・RJ「オリンピック」（中学校部会合同授業 体育理論）
- 7月 1日 SP・RJ 合同授業（小5合同授業）、SP・RJ 低学年部会接続テスト
 2日 インターネット業者とWiFi 速度改善について相談
 6日 運営委員会（オンライン）
 SP・RJ「オリンピック」（中学校部会合同授業 体育理論）講師招聘
 インターネット業者とWiFi 速度改善について相談
 8日 SP・RJ「ほかの町に住む友だち」低学年部会研究授業
 12日 AG5ヒアリング
 13日 PTA 代表委員会（オンライン）
 SP・RJ「オリンピック」（中学校部会合同授業 体育理論）
 インターネット業者とWiFi 速度改善について相談
 14日 リオタイム中間発表会①（校内 総合的な学習の時間）
 15日 職員室にインターネット回線を増設完了
 16日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
 SP・RJ 高学年部会合同会議
 21日 リオタイム中間発表会②（校内 総合的な学習の時間）
- 8月 4日 校内 LAN 配線、アクセスポイント設置工事①
 5日 校内 LAN 配線、アクセスポイント設置工事②
 6日 校内 LAN 配線、アクセスポイント設置工事③
 10日 運営委員会（オンライン）
 11日 校内研修（7月8日低学年部会研究授業について）
 12日 SP・RJ「オリンピック」（中学校部会合同授業 体育理論）
 SP・RJ 保健（中学校部会合同授業 体育）
 13日 情報モラル指導（全校児童生徒）
 17日 SP・RJ「オリンピック」（中学校部会合同授業 体育理論）講師招聘
 18日 校内 LAN 業者設定
 19日 SP・RJ（高学年部会合同授業 小学5年 道徳）
 20日 リオデジャネイロ日本人学校OG・OBとの交流会（小学5年総合的な学習の時間）
 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
 23日 SP・RJ（高学年部会合同授業 小学5年 国語）
 SP・RJ 高学年部会合同会議
 24日 PTA 代表委員会（オンライン）、SP・RJ 中学校部会合同会議
 25日 15:35～15:55 SP・RJ 合同研修会（低学年部会研究授業について、今後の研究について）

- 9月 1日 運営委員会（オンライン）
SP・RJ「ブラジルを好きになる、もっと好きになる～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」(*以下「サンバ」)（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 2日 リオデジャネイロ連邦大学交流接続テスト
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 3日 創立50周年記念ビデオ「50年のあゆみ」「校歌合唱ビデオ」youtube 限定公開
- 6日 教員が自宅からオンライン授業（小3国語、中1家庭）
- 8日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 10日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 13日 SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 14日 PTA代表委員会（オンライン）
- 15日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ 高学年部会合同会議
- 16日 リオデジャネイロ連邦大学交流リハーサル
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」個人中間発表1回目（中学校部会合同研究授業 総合的な学習の時間）
- 17日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
- 20日 リオデジャネイロ連邦大学交流会
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 24日 PTA代表委員会（オンライン）
SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 27日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
校内研修（中学校部会研究授業ふりかえり、高学年部会研究授業指導案検討）
- 28日 教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 29日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
- 30日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）講師招聘
- 10月 1日 運営委員会（オンライン）
- 4日 SP・RJ「ブラジルを好きになる、もっと好きになる～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」（高学年部会合同研究授業 総合的な学習の時間）
- 5日 教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 6日 SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 7日 PTA代表委員会（オンライン）
SP・RJ「サンバ」（高学年部会合同授業 総合的な学習の時間）
SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」（中学校部会合同授業 総合的な学習の時間）
教員が自宅からオンライン授業（英会話）

- 10月13日 SP・RJ「サンバ」(高学年部会合同授業 総合的な学習の時間)
校内研修(高学年部会研究授業ふりかえり)
- 14日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 18日 SP・RJ「自動車工場見学(バーチャル体験)」(小学5年合同授業 社会)
- 19日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 20日 SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」(中学校部会合同授業 総合的な学習の時間)
SP・RJ「サンバ」(高学年部会合同授業 総合的な学習の時間)
- 21日 SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」(中学校部会合同授業 総合的な学習の時間)
SP・RJ「サンバ」発表会(高学年部会合同授業 総合的な学習の時間)
教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 22日 11:00~12:00 AG5 4校合同研修会
- 24日 SP・RJ「サンバ」(高学年部会合同授業 総合的な学習の時間)
- 26日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
SP・RJ・マナウス合同授業「顔合わせ」(RJ小学3、4、5年、SP小学3年、マナウス小学3、5年)
- 27日 SP・RJ「ブラジルと日本の架け橋になろう」発表会(中学校部会合同授業 総合的な学習の時間) *アスンシオン日本人学校、サンホセ日本人学校の中学部に発表
教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 11月 1日 運営委員会(オンライン)
AG5 サンホセ、リオ研究主任打ち合わせ会(コーディネーター:JOES 後藤)
- 4日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 8日 運営委員会(オンライン)
- 9日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
PTA代表委員会(オンライン)
- 10日 AG5シェアポイントに4校研究授業についてのコメントをアップロード
- 16日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 18日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 23日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 24日 15:45~16:45 SP・RJ 合同研修会
- 25日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 26日 11:00~12:00 AG5 4校合同研修会
- 30日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 12月 1日 運営委員会(オンライン)
校内研修会(AG5研究に関するアンケート結果分析、来年度の遠隔教育について)
- 2日 教員が自宅からオンライン授業(英会話)
- 3日 一時帰国児童とハイブリッド(対面+オンライン)授業、オンライン授業
- 6日 一時帰国児童とハイブリッド(対面+オンライン)授業、オンライン授業
一時帰国教員がオンライン授業
AG5 4校研究主任者会(コーディネーター:JOES 後藤)
- 7日 一時帰国児童とハイブリッド(対面+オンライン)授業、オンライン授業
一時帰国教員がオンライン授業
教員が自宅からオンライン授業(英会話)
PTA代表委員会(オンライン)
個人懇談(オンライン)

- 12月 8日 一時帰国児童とハイブリッド（対面＋オンライン）授業、オンライン授業
一時帰国教員がオンライン授業
- 9日 一時帰国教員がオンライン授業
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
リオタイム（総合的な学習）発表会（一時帰国教員がオンライン授業）
- 10日 終業式、転出児童送別会、職員会議（オンライン）
- 17日 11:00～12:00 AG5 4校合同研修会
- 24日 AG5シェアポイントに「学年部会公開授業の授業の見どころ・コメント等」をアップロード
- 25日 AG5シェアポイントに「RJSP 高学年部会研究授業指導案」をアップロード
- 28日 AG5シェアポイントに「RJSP 高学年部会研究授業公開用ビデオ」をアップロード
- 1月 5日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業、オンライン授業
職員会議（一部オンライン）
- 6日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業、オンライン授業
一時帰国教員がオンライン授業
- 7日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業、オンライン授業
一時帰国教員がオンライン授業
- 11日 運営委員会（オンライン）
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 12日 教員が自宅からオンライン授業（小1算数）
校内研修（AG5研究発表会自校プレゼン）
AG5研究主任者会（JOES 後藤、AC・SJ・SP・RJ 研究主任）
- 13日 教員が自宅からオンライン授業（英会話、小1算数）
- 17日 教員が自宅からオンライン授業（小1算数、小3・4図工）
- 18日 教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 19日 全員がオンライン授業
校内研修（本校新 Web ページの WordPress による編集について）
- 21日 全員がオンライン授業
11:00～13:00 AG5研究発表会
- 24日 全員がオンライン授業
ブラジル国内日本人学校3校合同授業
- 25日 全員がオンライン授業
- 26日 全員がオンライン授業
- 27日 全員がオンライン授業
- 28日 全員がオンライン授業
職員会議（オンライン）
- 31日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業、オンライン授業
- 2月 1日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
運営委員会（オンライン）
- 2日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
- 3日 教員が自宅からオンライン授業（英会話）
ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
- 8日 PTA 代表委員会（オンライン）
ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 9日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
- 10日 ハイブリッド（対面＋オンライン）授業
教員が自宅からオンライン授業（英会話）
- 11日 AG5研究報告書提出

6. 今年度の成果・効果

成果：遠隔教育（授業・研修）に関するプログラム開発
遠隔教育を実施し、成果と課題、解決策等について整理し、発表した。

<遠隔授業>

- A サンパウロ日本人学校との合同研究授業
 - ①低学年部会「ほかの町に住む友だち」RJ・SP小3 総合的な学習の時間
 - ②高学年部会「ブラジルを好きになる、もっと好きになる
～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」
RJ小4・5、SP小5 総合的な学習の時間
 - ③中学校部会「ブラジルと日本の架け橋になろう」
RJ中1、SP中1・2 総合的な学習の時間

- B 他校との交流
 - ①リオデジャネイロ日本語モデル校
「C 本校の授業や行事 ③リオデジャネイロ日本語モデル校交流会」参照
 - ②リオデジャネイロ連邦大学
「C 本校の授業や行事 ③リオデジャネイロ連邦大学交流会」参照
 - ③ブラジル3校交流会（マナウス日本人学校、サンパウロ日本人学校、本校）
 - ④アグアスカリエンテス日本人学校・サンホセ日本人学校

- C 本校の授業や行事
 - ①着任式、転入児童歓迎会、始業式、入学式
 - ②リオ日学OG・OB交流会
 - ③リオデジャネイロ日本語モデル校交流会
 - ④リオデジャネイロ連邦大学交流会

<遠隔研修>

- D サンパウロ日本人学校との担当者会議、合同研修会、各部会での話し合い
 - ①SP・RJ合同研修会（4月、8月、11月）
 - ②児童・生徒、教員アンケート（6月、11月）

- E AG5の4校合同研修会、研究主任者会議、研究発表会

- F 自校でのオンライン授業や行事についての情報交換、話し合い、研修等
 - ①遠隔授業時間割表
 - ②PMIQシート
 - ③オンライン授業のきまり
 - ④アンケート（6月、11月）

<遠隔教育環境整備>

- G インターネット回線増設と校内LAN整備

- H 共有フォルダの利用
 - ①サンパウロ日本人学校等との共有フォルダ
 - ②児童生徒共有フォルダ

- I 情報機器の整備と活用

【内容】

＜遠隔授業＞

A サンパウロ日本人学校との合同研究授業

①低学年部会「ほかの町に住む友だち」RJ・SP小3 総合的な学習の時間

2021年度RJSP2校合同研究授業 低学年部会学習指導案

| | | |
|--------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 7月8日(木) | 3年 総合的な学習の時間 「ほかの町に住む友だち」 | ＜児童＞RJ3年生 2名 SP3年生 11名 |
| RJ5校時 SP6校時 13:25～ | | ＜授業者＞RJ 稲垣 新樹 SP 臼田 淳 |

1. 単元の目標

- サンパウロとリオデジャネイロの文化・風習・気候などについて理解するとともに、書籍、インターネット、実際に話を聞くなどしながら、調べまとめることができる。【知識及び技能】
- 下記の交流の仕方を身につけることができる。【知識及び技能】
 - ・相手のことを知ること。
 - ・相手が話しやすくなるように聞くこと。
 - ・相手を意識して伝えること。
- サンパウロとリオデジャネイロを比較することで、ブラジルの地域による環境・文化・風習・気候などの違いに気づき、双方の土地の新たな魅力に気付くことができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 異なる町に住む人とのよりよい交流方法を学ぶことで、相手へ理解だけでなく、自分の住んでいる町への愛着も持つことができる。【学びに向かう力、人間性等】

2. 児童の実態

サンパウロ日本人学校の児童は13名であるが、うち2名が日本在住の二重学籍で、サンパウロ在住は11名である。

授業中はきちんとノートを取るということや自分の意見を話そうとするなど、一生懸命で真面目な児童が多い。また、教育相談アンケートの結果で「学校の勉強は大切だ。」と全員が回答し、学習意欲は高いと感じる。

本時の単元に関わる実態としては、相手の話を聞く場面でも、自分の言いたいことを言ってしまうということが挙げられる。また、誰かが教師と1対1の会話をしている際に、話題を聞いて話に加わることができる児童は少ない。

次に海外経験だが、11名のうち、サンパウロに来て1年未満の児童が2名で、その他の児童は2年以上住んでいる。しかし、サンパウロについての作文を書かせた際、住んではいるが、その町のもつ「魅力」を感じ取っている児童はほとんどいないように思われた。つまり、ただ「サンパウロに住んでいるだけ」と思われる児童が多くいる。

一方、リオデジャネイロ日本人学校の児童は現在2名が在籍している。A児はリオデジャネイロに来てから約1年経過している、また、B児は3か月が経過している。自分たちの住むリオデジャネイロが日本の裏側にあることや、日本と比べて環境・文化・風習・気候などが大きく違うことは肌で感じている。

ただし、子どもたちの中では、ブラジル＝リオデジャネイロとなっており、リオデジャネイロでの生活がブラジル全域に当てはまると考えている傾向がある。また、リオデジャネイロ以外のブラジル国内の地域に関する知識が乏しく、ブラジル国内での地域による多様な環境・文化・風習・気候などの違いには全く気付いていない。

他者との関係性の構築の点では、協働的に学ぼうとする意欲はある。しかし、二人とも受け身なところが見られ、相手から何かしてもらおうことを待っている傾向が見られる。今回の授業を通して、他者と仲良くしようとすることで、積極性を持ち、柔軟で豊かなコミュニケーション能力の土台作りができればと考えている。

3. 教材について

本教材では、まず、「相手の住む町」についての調べ活動が主体となる。これは、2校合同研究の主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」の「多様性を受け入れ」の部分に関わる。

3年生の発達段階で、「多様性を受け入れる」ということは、自分とは異なる町に住む人と仲良くなるということと考えた。子どもたちは、道徳の授業の際に、知らない人と仲良くなるには「相手を知ればいい」という経験をしている。そのことを生かして、相手と仲良くなるために相手の住む町のことを調べていく。

次に主題にある「柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち」は、距離的に離れていても、コロナ禍で移動の制限があっても、その中でできるコミュニケーションを体験させることで、そのような力を育む土台を作ることができると考えた。その中でも、「相手の話をどのように聞くと、相手は話しやすくなるか」ということを考えさせ、考えたことを実践させて身になるコミュニケーション能力を高めさせたい。また、本時の経験を生かして、別の町に住む同級生との交流も可能になると考えた。

最後に、「仲良くなろう」という共通の目標の下にお互いの発表を聞き合う中で、協働して1つの時間を作り上げる体験をさせ、今後の学習への意欲を獲得させていきたい。

以上の3つの視点から以下のような教材を考えた。

①1次目標

- ・リオとサンパウロの交流を通して、交流学习の型の習得と地元への愛着の獲得を目指す。

②めあて

「ほかのまちにすむ小学生となかよくなろう。」

③内容

1. 相手の町を調べてみよう。

- 知らない人と仲良くなるには、「相手がどんな人かを自分が知れば、相手と仲良くなることができる」ことから、相手のまち調べをすることを始める。

○調べる内容としては、

- ・場所と気候
- ・その町の名前の由来
- ・その町の名所や名物（食べ物、サッカーチーム、サンバなどのお祭り、お店）など、子どもたちが興味をもっていること。

2. 調べたことを新聞にまとめてみよう。

- 自分たちの調べたことをA4一枚にして、まとめる。
- 見る相手にとって分かりやすいものか、おもしろいと思ってもらえるものかを常に意識させて、まとめていく。

④ 2次目標

- ・交流したことを生かして、他の国に住む人と交流し、興味や知見を広げる。

⑤ めあて

「もっと友だちをふやしてみよう。」

⑥ 内容

1. 交流したことを生かして、別の友達と交流してみよう。
 - リオとサンパウロの交流で培ったことを生かして、新たに交流する計画を立てる。
 - 計画は、自分が交流したい国を決める。(すでに計画のある現地校などがあれば、交流も想定する。)
2. 調べたことを新聞にまとめてみよう。
 - ③-2と同様。
- 3-1 まとめたことを発表しよう。
 - 内容は③3-1と同様。
 - 自分の学校の1～2年生に発表を聞いての感想を書いてもらい、それを読んで前回から伸びていることを確認し、自信をもてるようにする。
 - 現地校と交流するのであれば、ポルトガル語での発表をする。
- 3-2. まとめたことを発表しよう。
 - リアルタイムが難しい場合、メールなどでの交流をする。

⑦ 3次目標

- ・それぞれの活動を振り返り、互いの努力や工夫を認め合うなど、相手を尊重する態度を養う。

⑧ めあて

「おたがいの交りゅうを知らせ合おう（会おう）。」

1. リオとサンパウロで、それぞれどんな交流をしてきたかの発表会をする。(全体)
2. その後、ブレイクアウトセッションでグループに分かれ、友だちと交流をする。時間を決めて、グループの児童をシャッフルし、多くの交流ができるようにする。

⑨ 自分の活動をふりかえろう。

1. 今回の活動で、楽しかったこと、できるようになったこと、友だちのことなどの観点で作文を書く。
2. 個人の発表をする。

4. 遠隔授業の視点から、単元で育みたい子どもの資質・能力

遠隔授業では、「相手が自分の話をきちんと聞いているか」に不安をもちやすい。それを解消するために、聞く側の努力で話しやすくなることを体験させる。その際、相手の話へのリアクションはよりよいコミュニケーションのための一つの技術であることを知らせ、その技能を使ってより良い話し合いの場は聞く側の努力でも作ることができるということを実感させていく。

5. 単元構成(11時間扱い・本時11/11)

| 時間 | 学習内容 | 支援・評価等 |
|-----------|---|--|
| 1 ~ 3 | <p>○目標の獲得と調べ学習の内容を決める。</p> <p>・リオとサンパウロの交流を通して、交流学习の型の習得と地元への愛着の獲得を目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ほかのまちに住む小学生となかよくなろう。</p> </div> <p>①相手の町を調べてみよう。</p> <p>○知らない人と仲良くなるには、「相手がどんな人かを自分が知れば、相手と仲良くなることできる。」ことから、相手の町調べを行う。</p> <p>○調べる内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所と気候 ・その町の名前の由来 ・その町の名所や名物（食べ物、サッカーチーム、サンバなどのお祭り、お店） <p>など子どもたちが興味をもっていること。</p> | <p>・「相手のことを知れば、仲良くなることできる」ということを子どもたちの経験から、思い起こさせる。</p> <p>・ウェビングなどで、子どもたちの興味を可視化する。</p> |
| 4 ~ 7 | <p>②調べたことをまとめよう。</p> <p>○自分たちの調べたことをA4一枚にして、まとめる</p> | <p>・相手にとって分かりやすいものか、おもしろいと思ってもらえるものかを常に意識させて、まとめさせていく。</p> <p>・教師が手本を提示することで、どのようなものを作成すればいいかわからない児童への手立てとする。</p> |
| 8 ~ 11 | <p>③発表会をしよう。</p> <p>1. 発表原稿を作ろう。</p> <p>2. 発表の練習をしよう。</p> <p>3. 他の町に住む小学生となかよくなろう。(本時)</p> <p>・リオとサンパウロの交流授業で、お互いについて調べたことを発表し合う。</p> <p>・発表後、自分たちができるようになったこと(交流の仕方の獲得)や、発表会の感想(地元への愛着など)を書かせる。</p> | <p>・自分たちでまずは発表をしてみ、発表原稿の必要性に気づかせる。</p> <p>・他学年の児童に発表を見てもらい、自分の発表について客観視し、自分で直しができるようにする。</p> <p>【評】相手の話を聞いて、自分の感じたことを様々な方法で表現している。 (知識・技能)</p> <p>【評】発表会での交流を通して、相手への感謝の気持ちや自分の街の魅力を再発見している。(思考・判断・表現)</p> |

6. 本時のポイント

【子どもが主体的に取り組むための学習展開】

- 共通の目的である「ほかのまちに住む小学生となかよくなる」ことが意識できる発問を工夫する。
- 相手の話を聞きとり、思ったことや感じたことを表現することができるよう、発表の後に交流の時間を設ける。
- 子どもたちが発表しやすいよう、端末操作を教師がサポートする。

【協働を通して学びを深めるための ICT の活用】

- zoom を使って、リアルタイムで交流授業を行う。
- 発表の提示資料をデジタル化することで、教師が異なる場所にいる児童の実態をより理解できたり、異なる場所にいる子どもたちが同じ進捗・方向性を持って授業に参加したりできるようにする。

7. 本時の目標

- 調べたことを発表する活動を通して、相手の話をよく聞いたり、様々な方法で表現したりすることができる。

(知識・技能)

- 他校の発表を聞くことで、相手校の児童への理解を深めたり、自分の町の魅力を再発見することができる。

(思考・判断・表現)

8. 本時の展開(11/11)

| 主な学習活動と子どもの思考の想定 | 教師のかかわり |
|---|--|
| <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><前時までの活動や子どもの思考の流れ> リオとサンパウロの共通の目標と相手を意識した発表を練習し、提示資料を作成してきている。</p> <p>○今日の交流の流れを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうすれば話しやすい発表会にできるかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて驚いたことや心が動いたことを、発表している人に伝えたいな。 ・「すごい」「へえ！！」と思ったら、それをリアクションで表現できるといいね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リオとサンパウロの教師で、話しやすくなる発表会のお手本を見せる。 |
| <p>○発表会をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) リオの発表 (2) 交流の時間(感想など) <ul style="list-style-type: none"> ・えっ！こんなものがサンパウロにあったの？ ・まとめがとても分かりやすかったなあ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・心の動きが分かる札を用意することで、話題に沿った質問や感想が言えるようにする。 |

- ・話し方がとても上手だったよ。
 - ・反応をしてもらえたので、話しやすかったね。
- (3) サンパウロの発表
- (4) 交流の時間 (感想など)
- ・えっ！こんなものがリオにあったの？
 - ・まとめがとても分かりやすかったなあ。
 - ・話し方がとても上手だったよ。
 - ・反応をしてもらえたので、話しやすかったね。

【評】相手の話を聞いた
り、自分の感じたことを
様々な方法で表現してい
る。(知識・技能)

○発表会を振り返る。

聞いてくれた友だちがうなずいたり、反のうを返してくれたから、
話しやすかったしうれしかったよ。自分の住んでいるまちのこと
でも、知らないことがあっておどろいたね。

○学習の振り返りを書く。

○次の単元に向けた意欲をもつ。

- ・また2校で交流したいね。もっと違う場所の人とも交流してみたいな。

【評】相手への理解を深
めたり、自分の町の魅力
を再発見している。(思
考・判断・表現)

研究授業 (低学年部会)

小学3年 総合的な学習の時間 「ほかの町に住む友だち」

サンパウロ日学の児童

リオデジャネイロ日学の児童

リオデジャネイロの町について
調べる・まとめる・発表する

サンパウロの町について
調べる・まとめる・発表する

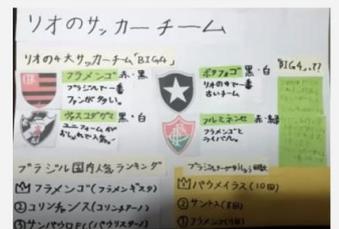
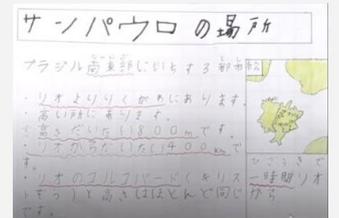
＜本時＞発表会

- ・相手に伝わりやすく表現する
- ・相手の話をしっかり聞く
- ・相手の児童への理解を深める
- ・自分の町の魅力を再発見する

発表から交流へ

この経験を他の交流に生かす

例：リオデジャネイロ連邦大学交流会



- ＜成果＞
- お互いの町について調べることで、自分の住む町以外のブラジルの町の様子を知るとともに、自分が住む町との違いに気づき、自分の住む町の特徴について改めて気づいたり、もっと調べてみようという意欲が出てきた。
 - 遠隔で相手に伝わりやすく伝えようと工夫したり、相手の話をしっかりと聞いていることを伝えることを意識するようになってきた。
 - 児童が紙に字や絵でまとめた物を直接、または写真で写したものを画面共有し、それを見ながら発表するなど、発達段階に合ったICTの活用の工夫ができた。

②高学年部会「ブラジルを好きになる、もっと好きになる
～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」
RJ小4・5、SP小5 総合的な学習の時間

2021年度RJSP2校合同研究授業 高学年部会指導案

| | | |
|---------------------------|---|-----------------------------------|
| 10月4日(月) | 4、5年 総合的な学習の時間 「ブラジルを好きになる、 もっと好きになる ～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」 | <児童>RJ 4年生1名 5年生4名 SP5年生10名 |
| RJ 2校時 SP 3校時 9:10～ | | <授業者>RJ 渡邊 篤 藤澤 義栄 SP 金古 和美 |

1. 単元の目標

今、生活している『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』ために、ブラジル文化を『調べる』『体験する』『学ぶ』『作る』活動を通して、日本文化との違いやよさに気づき、そのよさを様々な人たちに伝えられるようにする。

- ・ブラジルの文化の理解を深め、ブラジルでの生活の中で楽しみを見つけ、理解したことを発信する。【探求課題】
- ・ブラジル文化に触れ、体験することで、ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、ブラジルのよさを伝えることができる。【知識及び技能】
- ・ブラジルの文化(人、もの、こと)の中から課題を見出し、目的に応じた情報を収集・比較し解決策を見出す活動を通して、相手や目的に応じて表現したり、構成を考えて発信したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・進んでブラジル文化に関わり、ICTを有効に活用して交流したり発信したりすることで、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

2. 児童の実態

RJ: 児童の在ブラジル期間は2年以上2名、1年以上2年未満1名、1年未満2名である。

実施したアンケート結果から『ブラジルが好きだ』という子どもたちがほとんどであった。渡伯したばかりの時は日本との違いに、不安が大きかったが生活していくうちにどんどん好きになっていくようであった。

好きな理由は『ブラジルの人は優しい』『食べ物がおいしい』が多かった。ブラジルについて興味があること、知らないことが多いのもっと知りたいと考えている。

また、少人数の活動が多いため、リオ日学の中であれば自分の意見や学んだことを人に伝えたりすることに抵抗はない。しかし、大勢の人や校外の方の前での発表する機会が少ないため、委縮してしまい、積極性がなくなってしまう。

SP: 5年生は男子6名、女子4名計10名である。どちらかというとな活発な児童が多い。発言が多く、よく考えて行動する児童もいるが、落ち着きのない児童や慎重に考えて行動する児童など個性豊かである。

サンパウロの生活には概ね順応しているが、中には以前いた別の地域を懐かしむ発言も見られる。このような児童が生活している地域を見直し、知らなかったことに気付いたり、見過ごしていたことの価値を見つけたりすることは大変有意義であると考えられる。

また、長く続いたオンライン生活のため、ICT機器の扱いには慣れている児童が多いので、調べ学習や交流学习にさらに活かせる場の設定が有効だと考える。10人という少人数で活動している児童にとって、オンラインであっても、他地域の同世代の子どもたちと交流することは、様々な価値観に触れるという意味で、非常に有意義であると考えられる。

3. 教材について

ブラジルには様々な文化があるが、本単元では『サンバ』について学習に取り組むようにする。両校の子どもたちが思い浮かべている『サンバ』は、カーニバルにおける特徴のある踊りを連想することがほとんどではあるが、その生まれた背景や歴史を知ったうえで、『サンバ』を改めて学んでみると、様々な視点から文化を見ることができると期待している。

また、踊りだけでなく、音楽、衣装などに注目することで、総合的な学習の時間だけでなく、他教科(体育のダンス、音楽のリズム楽器、家庭科の裁縫による製作など)と連携した授業が展開できると期待している。児童のアンケート項目の『ブラジルといえば何を思い浮かべるか(複数回答)』には、ほとんどの児童が『サンバ』を答えているため、主体的に学習に取り組み、活動の様子をまとめたり、紹介したりする発表活動を行うのに適した教材であると考ええる。

4. 遠隔授業の視点から、単元で育みたい子どもの資質・能力

本単元は、児童が、調べたことを分かりやすく『発信する活動』を通して、異なる地域や文化を比較し、理解を深めることをねらいとする。単元に向かう前にR J校とS P校対象児童の『交流を深める』試みを重ね、その上で相互の地域性を生かした調べ学習を通して地域理解が深まると考える。これは、2校合同研究の主題である「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」につながると考えた。

具体的には、「多様性を受け入れ」については、リオデジャネイロ、サンパウロの生活を通して身につけた知識や習慣から国内における地域の違いに気付いたり、日本とブラジルの考え方の違いを知ったりすることで、自分とは異なる考え方があることを受け入れ、柔軟な発想力を高めていくものと考ええる。

「柔軟で豊かなコミュニケーション力」については、少人数内で行う意見交換や交流から始め、徐々に人数を増やしながらか議論や発表する機会を増やし、表現する能力を高めていく。そのような過程でプレゼンソフト、文章作成ソフト、表計算ソフトなどを使いながら、様々な表現方法を身に付けられるようになるものと考ええる。

「協働できる子ども」については、個人の学習を深める活動だけでなく、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げ、喜びを分かち合う活動を通して、お互いの意見を尊重したり、思いやりをもって自分の意見を伝えたりする態度が身に付くものと考ええる。

また、遠隔授業においては、上記の主題が達成でき、同世代、同国の取り組みから始め、異世代、異地域との交流につなげて、幅広い視野をもった子どもたちを育みたいと考える。

5. 単元構成(20時間扱い・本時11/20)

| 時間 | 学習内容 | 支援・評価等 |
|--------------|---|--|
| 1 | <p>「サンバについて知ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル出身の先生からサンバの歴史などの説明を聞いて学び、音楽に触れてみる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル文化を理解している。【知・技】 ・自ら課題を設定している。【思・判・表】 ・進んで活動に取り組んでいる【主】 |
| | <p>ブラジルをもっと好きになるために、「サンバ」を学び、伝えるにはどのようにしたらよいだろう。</p> | |
| 2 ～ 10 | <p>「サンバについて調べよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【踊り】【衣装】【楽器】のグループに分かれ、疑問に思ったことを調べる。 ・グループごとに日本の踊りとの共通点や相違点を見つける。 ・調べ方、発表の仕方を考える。 ・個人で調べた内容をグループ内で発表、共有し、グループの発表を考える。 ・グループで発表することをまとめる。 ・講師による【踊り】の体験をする。 ・中間発表会を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループには両校の児童が入るようにする。 ○一人一台タブレットを使用させる。 ○ハウリングが起きないように、グループごとに教室を分け、タブレットの音声を切り、集音マイクを使用する。 ○班長を中心に役割を決めて、発表のための作業を行わせる。 ○インターネットが繋がりにくい時にはタブレットの接続台数を減らしたり、画面を切って音声やチャット機能を使わせる。 ○インターネットが繋がらなくなってしまうときは、教師同士が携帯電話を使って情報交換を行うようにする。また、個人で行える活動をさせる。 ○疑問に思ったことへの答えがインターネット上で見つからない時には、図書を参考にしたり、サンバをよく知る人へインタビューするなどのアプローチの仕方に変えさせる。 ・ブラジル文化と日本文化の違いに気付いている。【知・技】 ・ブラジル文化の情報を収集し、ブラジル文化に関して疑問に思ったことを解決できている。【思・判・表】 ・ICTを活用してグループで協力して作業に取り組み、進んで活動に取り組んでいる。【主】 |

| | | |
|-----------------|---|---|
| 1 1 ～ 1 5 | 「調べたことを発表しよう。」 ・ 中間発表会を振り返り、改善する。 (本時) ・ 発表会に向けて練習する。 ・ 発表会を行い、自分のグループ以外のジャンルを学ぶ。 (講師を招いて、講評をいただく) ※ここまでが SPRJ 合同授業 | ○発表は各グループ6分とし、実演を入れるようにする。 ○発表内容や方法のよかった点や改善点を伝え合い、よりよい発表にしていく。 ・ ブラジルのよさを伝えることができてい る。 【知・技】 ・ ブラジル文化に関して疑問に思ったこと を解決できている。 【思・判・表】 ・ グループで協力して作業に取り組み、進 んで活動に取り組んでいる。 【主】 |
| 1 6 ～ 2 0 | 「学んだことをまとめ、伝えよう」 ・ サンバについて学んだことを個人でまとめる。 ・ 個人でまとめたことを様々な人たちに発表する。 | ○各校で学習発表会や交流会等で発表でき るようにする。 ・ ブラジルのよさを伝えることができてい る。 【知・技】 ・ 相手に応じて表現を変えることができて いる。 【思・判・表】 ・ 進んで活動に取り組んでいる。 【主】 |
| | 様々な視点から物事を見れるようになり、自分の考えを述べたり、議論して、ブラジルのよさをみんなに伝えることができたね。 | |

【単元の評価基準】

| | A | B | C |
|---------------|---|--|--|
| 知識・技能 | ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、ブラジルのよさを伝えることができた。 | ブラジル文化と日本文化の違いに気づき、そのことを伝えることができた。 | ブラジル文化と日本文化の違いに気づいた。 |
| 思考・判断・表現 | ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、相手や目的に応じて表現したり、構成を考えて発信したりすることができた。 | ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、表現したり、発信したりすることができた。 | ブラジルの文化の中から課題を見つけ、情報を収集・比較、解決し、表現できた。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 進んでブラジル文化に関わり、ICT を有効に活用して交流したり発信し、他者と協力したり、助け合ったりして物事を成し遂げようとすることができた。 | 進んでブラジル文化に関わり、ICT を活用して交流したり発信し、他者と協力したり、助け合ったりすることができた。 | ブラジル文化に関わり、ICT を活用して交流したり、他者と協力することができた。 |

【評価方法】

- ・ 児童の毎時間のワークシート
- ・ 教師の観察
- ・ 児童の自己評価、相互評価の記録
- ・ 単元の事前アンケートと事後アンケートの結果による変容
- ・ 発表会の記録など

6. 本時のポイント

【子どもが主体的に取り組むための学習展開】

教師は最初に本時の活動のねらいを伝え、主体的に問題意識をもって活動できる場の設定をする。グループ活動では教師がアドバイザーとして関わり、子どもの意見を尊重し、話し合いになかなか参加できない子には、視点を与えたりしながら、活動や発言を促すようにする。最後にグループ内で個々の評価をして、子どもたちが次回以降も積極的にグループ活動に参加したくなるようにする。

【協働を通して学びを深めるための ICT の活用】

遠隔会議システムを用いることで、異なる地域の子どもたちをつなぎ、協働することで得られる協力する力、達成感、他者を受け入れる態度（心）を育てるようにする。特に様々な意見を聞くことで、自分自身の知識にさらに、多様な知識が加わり、より深い学びにつながっていくと考える。

7. 本時の目標

○自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。【学びに向かう力、人間性など】

○発表内容をより分かりやすいものにすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

8. 本時の展開(11/20)

| 主な学習活動と子どもの思考の予想 | 教師のかかわり |
|---|---|
| <p><前時までの活動や子どもの思考の流れ> 中間発表会を行い、質問やアドバイスを教師が集約し、各グループに伝えた。 相手にわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいかについて、問題意識をもっている。</p> <p>○グループごと3か所に分かれ、遠隔会議システムで一斉に集まる。 ○本時の流れ、目標（めあて）を確認する。 ・前時に行った中間発表会で出たアドバイスや質問を整理しよう。 ・グループでアドバイスや質問を共通理解しよう。 ・発表方法や内容を改善する方法を考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中間発表会の振り返りや反省を生かし、よりわかりやすく伝えるための方法を探し、次回の発表に向けて工夫しよう。</p> </div> | <p>○一人一台タブレットを使用する。 ○インターネットが繋がらなくなった場合は、グループで1台のタブレットにするよう対応する。 ○プリントにそって説明、班長中心に活動する内容を確認させる。</p> |
| <p>○ブレイクアウトルームで分かれ、グループごとに発表会に向けて内容を改善する。 ・発表時間が長かったから、内容を少し減らしたほうがよいね。 ・難しい言葉を多く使っていたから、簡単な言葉を使うようにしよう。 ・実演が見づらかったから、ゆっくり大きくやってみよう。 ・資料を見せるのに手間取ってしまったから、練習を繰り返すといいね。 ・質問に関して調べてみよう。</p> | <p>○グループ活動に全員が参加できるように促す。 ○改善策が思い浮かばないときは、アドバイスをする。</p> |
| <p>○グループ内で発表をして担当する教師に見てもらい、評価してもらう。 ・伝わりやすい内容になったね。 ・詳しく説明ができたよ。</p> <p>○個人で振り返りを行う。(プリント)</p> <p>○振り返りをグループ内で共有する。 ・発表が時間内に収まることできたよ。 ・自分の意見を伝えることができたよ。 ・まだ、上手に資料を見せることができないところもあったよ。</p> <p>○担当する教師からの評価を聞く。 ・話し合い活動で相手の意見を受け入れることができたよ。 ・発表する内容が、前よりわかりやすくなったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中間発表の振り返りや反省を生かし、よりわかりやすく伝えるための方法を探し、次回の発表に向けて工夫しようとすることができたね。</p> </div> | <p>○改善が進んだところまでを評価し、アドバイスをする。 ○児童主体で進まないようならば、教師主導で行う。 ○グループ活動の評価と個人の評価をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・話し合い活動に参加し、意見交換している。【主】 ・発表内容が改善され、分かりやすく、伝わりやすい内容にできている。 【思・判・表】</p> </div> |
| <p>○遠隔会議システムで一斉に集まり、次回の流れを確認する。 ・本時の続きと発表会に向けての練習をしよう。</p> | <p>○プリントで説明、確認をする</p> |

本時の評価基準

| | A | B | C |
|---------------|--------------------------------------|--|----------------|
| 思考・判断・表現 | 発表内容を改善して、分かりやすく、伝わりやすい内容にした。 | 発表内容を改善して、分かりやすくした。 | 発表内容を改善した。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、相手の意見を受け入れていた。 | 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったか、もしくは相手の意見を受け入れた。 | 話し合い活動に参加していた。 |

本時の使用機器、教室配置、担当教員、児童について

| グループ | リオデジャネイロ校 | | | | サンパウロ校 | | | |
|---|-----------|--|-------------|----|--|---------------------------|------|----|
| | 場所 | 機器 | 担当教員 | 児童 | 場所 | 機器 | 担当教員 | 児童 |
| 踊り | 4年生 教室 | 児童用 タブレット1台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク | 渡邊篤 | | 教室1 | 児童用 タブレット3台 | | |
| 衣装 | 特別 教室 | 児童用 タブレット2台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク・ スピーカー | (渡辺稔 校長) | | 教室2 | 児童用 タブレット3台 教師用PC1台 | 金古和美 | |
| 音楽 | 5年生 教室 | 児童用 タブレット2台 教師用PC1台 (録画) 集音マイク・ スピーカー | 藤澤義栄 | | 教室3 | 児童用 タブレット4台 | | |
| ※ZOOMを使用して、全員がつながるようにする。グループごとにブレイクアウトルームに分かれる。 | | | | | | | | |
| ※集音マイク・スピーカーを使用するため、児童用タブレットの音声は全てオーディオ接続しない。 ※教師用PCは共同ホスト | | | | | ※児童用タブレットの音声は、グループで1台使用し、その他はオーディオ接続しない。 ※教師用PCはホスト | | | |

※当日のインターネット環境により場所や機器が変更することがあります。

研究授業（高学年部会）

小学4・5年 総合的な活動の時間
「ブラジルを好きになる、もっと好きになる
～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」

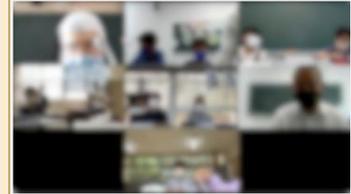
サンパウロ日学とリオデジャネイロ日学の児童

サンバについて、「踊り」「音楽」「衣装」の3つのグループに分かれて、調べる・まとめる・発表する

＜本時＞中間発表のふりかえりをして、より良い発表にしてい

3つのグループの発表会

マナウス日学も交えたブラジル3校交流会へ



RJ小学4・5年、SP小学5年 総合的な活動の時間
「ブラジルを好きになる、もっと好きになる～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」

・単元構成（20時間扱い・本時11/20） 児童：RJ 4年1名、5年4名 SP 5年10名

- 1 サンバについて知ろう（1時間目）
 - ・ブラジル出身の先生からサンバの歴史などの説明を聞いて学び、音楽に触れてみる。
- 2 サンバについて調べよう（2～10時間目）
 - ・【踊り】【衣装】【楽器】のグループに分かれ、調べ、まとめ、中間発表をする。
- 3 調べたことを発表しよう（11～15時間目）
 - ・中間発表会を振り返り、改善する。（本時：11時間目）
 - ・発表会を行い、聞き合う。
- 4 学んだことをまとめ、伝えよう（16～20時間目）
 - ・サンバについて学んだことを個人でまとめ、発表する。

- ＜成果＞
- この研究授業の前に、総合的な活動の時間や他の教科の時間で遠隔合同授業を多く行ったので、両校の子どもたちがよく知り合い、話し合いを活発にすることができた。
 - それぞれの町で行われるサンバカーニバルのことを中心に、3つのグループ「踊り」「音楽」「衣装」に分かれて活動したことで、両校で比較したり、共通点を見つけたりしながら、興味をもって両校の児童が一緒に取り組むことができた。

- インターネットだけでなく、本物の衣装や楽器を使ったり、サンバの歴史を聞いたり、サンバダンサーの方から踊りを習ったりして、調べることができた。
- 児童が、両校で撮った写真を文と一緒に1つの googl スライドにまとめたり、両校で撮った楽器演奏のビデオを iMovie で上手に1画面に編集したりするなど、ICT を活用した協働ができるようになってきた。
- 児童の話し合いを活発にしたり、自主的に活動できるように、ワークシートを工夫し、教員が適切なアドバイスをした。

(ワークシート 表)

2021年10月6日(水)

SPRJ 合同授業(高学年)

総合的な学習の時間『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』

_____日本人学校 小学部__年 名前_____

今日のめあて

- ・グループの話し合い活動に参加しよう。(自分の意見を伝えたり、他の人の意見を受け入れよう)
- ・中間発表会での振り返りをもとに、よりよい発表をできるようにしよう。(アドバイスを参考にしよう)

話し合い活動 (10分)

この時間にやること

グループ活動(25分)

今後の予定

13日(水)13:40発表会へ向け練習 21日(木)13:40発表会 27日(水)まとめ、振り返り

(ワークシート 裏)

今日のふりかえり(5分)

| S | A | B |
|--|--|--------------|
| 発表内容が改善され、分かりやすく、伝わりやすい内容になった。 | 発表内容が改善され、分かりやすくなった。 | 発表内容が改善された。 |
| 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、相手の意見を受け入れることができた。 | 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、もしくは相手の意見を受け入れることができた。 | 話し合い活動に参加した。 |

授業 (研究授業)

子どもたちが資料を参考に自分たちでより良い発表になるように話し合いました。教師は話し合いを聞きながら、適切なアドバイスをしました。



授業の様子：楽器グループの話し合い



授業の様子：衣装グループの話し合い



授業の様子：踊りグループ 教師のアドバイス

- グループで調べたりまとめたりしたことをもとに、個人でより深く追求し、本校の「リオタイム発表会」(生活科・総合的な学習の時間の発表会)で、全校児童生徒や保護者の前で発表することができた。
- 相手校のインターネット接続環境に配慮しながら、どのように効果的にコミュニケーションをするかについて考え、機器設定や使い方などを工夫することができた。停電時やインターネット接続環境が悪い場合でも、臨機応変に対応できるようになった。

③中学校部会「ブラジルと日本の架け橋になろう」

RJ 中 1、SP 中 1・2 総合的な学習の時間

2021 年度 RJSP2 校合同研究授業 中学校部会指導案

| | | |
|-------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 9月16日 | 中学1・2年 総合的な学習の時間 | <生徒> SP：1年生4名 2年生9名 RJ：1年生1名 |
| 7校時 | 保健体育（体育理論） 「ブラジルと日本の架け橋になろう」 | <授業者>SP：竹治 義規 RJ：松平 豊 RJ：吉村 正浩 |

1. 単元の目標

- ①ブラジルと日本に関わる人や両国のつながり、世界とのつながりについて、元オリンピック選手の講話やオリンピック観戦を通して、テーマを見つけ、書籍、インターネットなどを利用して情報を集め、整理・分析し、まとめることができる。（知識及び技能）
- ②サンパウロ日本人学校とリオデジャネイロ日本人学校の2校合同で主体的・協働的に取り組み、互いの価値観や世界観を理解し合うことで、新たな考えをもつことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ③ブラジルの地から日本や世界へ発信することで、自らがブラジルと日本の架け橋を担う意識を高め、両国のつながりについて相互理解し、自分の価値観を深めることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ④ブラジルと日本のつながりについての探究的な学習や遠隔での学習を通して、互いの考えを尊重する態度や柔軟で豊かなコミュニケーションする方法を身に付けることができる。（学びに向かう力、人間性等）

2. 生徒の実態

サンパウロ日本人学校の中学1年生は4名、2年生は9名である。全体的に明るく、人懐っこい生徒が多く、授業に対して意欲的である。また、横のつながりもあり、和気あいあいとした雰囲気の中、学級活動や日々の授業等を進めることができる。

リオデジャネイロ日本人学校の中学1年生は1名である。中学生は1名だけなので、普段の授業は1人であるが、体育や音楽、委員会活動やクラブ活動、休み時間、学校行事などは、小学生と一緒にいき、リーダーとして活躍している。

サンパウロとリオデジャネイロをつなぐことによって、同年齢の集団で授業を受けることや自分の意見を集団の中で発表する経験ができ、今後の生活に生かしていけると考えている。合同の体育理論の授業においては、積極的に自分の考えを述べ、サンパウロ日本人学校の生徒にもプラスの刺激を与える存在であった。

また、オリンピック出場経験のある選手からの話に興味をもって聞き、オリンピックを通じた学習を両校の生徒が協働して行うことで、世界とのつながりを改めて意識できた生徒が多かった。しかし、生徒たちがブラジルで過ごしている期間はそれぞれであり、「ブラジルと日本」という視点で見ると、両国のつながりへの意識には差があると感じる。サンパウロ、リオデジャネイロ両都市で生活する生徒たちから見た両国のつながりを調べ、遠隔をツールとして協働して学び、発信していく学習を通して、自分の母国と現在生活している国を相互により理解するとともに、よりグローバルな視点を養っていくことにつなげたい。

3. 教材について

本研究は、一昨年度から始まり、2校合同研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」を昨年度設定した。今年度も、両校間で交流授業、研究授業、合同研修、部会研修等を行い、協力して研究をさらに進めてきた。

本年度、中学校部会の研究においては、「ブラジルと日本の架け橋になろう」を大テーマとし、ブラジルの地から日本や世界へ発信することを最終目標に掲げ、両国のつながりについて理解し、自分の価値観を深め、世界観を広げる機会とした。

また、探究的な学習や遠隔での学習を通して、多様性を受け入れ互いの考えを尊重する態度や柔軟で豊かなコミュニケーション力を高める機会にもした。

本単元は、総合的な学習の時間に位置付け、導入段階で保健体育の体育理論とも関連させながら、探求的な学習を進めてきた。具体的には、オリンピックを教材の一つとして、元オリンピック選手の講話や東京オリンピック観戦を通して、ブラジルと日本に関わる人や両国のつながり、世界とのつながりについて、テーマを設定した。特に、両国に関わっている人物、歴史、文化、政治、オリンピックから見えたコロナ差別、人権、スポーツのよさなど、いろいろな視点からテーマを設定させていきたい。その際、テーマを設定した理由も明確にもたせたい。

テーマに沿って調べ、まとめる学習をもとに、発表する活動では、Google スライド等を活用し、何を伝えたいのか、自分の価値観や世界観がどのように変化したのかなど、聞き手にわかりやすく伝える工夫や問題提起をし、聞き手にも考えさせるような工夫をさせたい。聞き手側には、発表者の多種多様な考えを尊重し、自己の価値観を深めさせたい。この活動が、研究主題の「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力をもち、協働できる子どもの育成」につながるものと考えている。

4. 遠隔授業の視点から、単元で育みたい子どもの資質・能力

遠隔授業では、口頭による方法だけでは、聞き手側に理解してもらうことが難しいことも考えられる。そこで、iPad や Google スライド等を有効に活用したり、動作を工夫したりして、視覚的に伝えることで、自分の考えをより理解してもらえることを実感させていきたい。また、調べた内容を説明するだけでなく、伝える内容の要点を絞ったり、問題提起したりして、聞き手側にも考えてもらうような発表の工夫をすることで、遠隔でも考えを共有し、深められることを実感させていければと願っている。

5. 単元構成(20時間扱い・本時 13/20)

| 時間 | 学習内容 | 支援・評価等 |
|-----|--|---|
| 1 | <p>○ブラジルと日本にどのようなつながりや関わりがあるか友達と交流しよう。</p> <p>・大テーマと学習の進め方の確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ブラジルと日本の架け橋になろう。</p> </div> | <p>・課題に関わるものをグループで交流しながら調べ、「ジャムボード」にまとめる。</p> <p>【評】大テーマについて、自分の考えを発表することができる(思・判・表)</p> |
| 2～8 | <p>○オリンピックについて学ぼう。</p> <p>※保健体育科の授業とコラボ</p> <p>・オリンピック新種目や東京開催ならではの取り組みについて学ぶ。</p> <p>○元オリンピック選手井上さんの講話から、オリンピックの意義やスポーツのよさを学ぼう。</p> <p>・井上さんの出場した女子7人制ラグビー種目から分かることやオリンピックのとらえ方を聞き、オリンピックを通しての世界とのつながりを学ぶ。</p> <p>○オリンピックを観戦する視点を決めよう。</p> <p>・観戦する視点をワークシートにまとめる。</p> <p>○オリンピック観戦レポートをまとめよう。</p> <p>・冬休みを利用して、観戦する視点に沿って、レポートにまとめる。</p> <p>○レポートのプレ発表会をしよう。</p> <p>・3～4名のグループに分かれ、お互いの発表のよさや改善点を交流する。</p> <p>・iPad等を利用して、まとめたレポートを見ながら、発表したり、聞いたりする。</p> <p>○オリンピック観戦レポートを発表しよう。</p> <p>・まとめたレポートを発表する。</p> <p>・井上さんからの総括(レポートを聞いての感想等)を聞く。</p> | <p>【評】</p> <p>①オリンピックとは何か(意義・目的など)を知る。(知・技)</p> <p>②東京オリンピックならではの工夫について知る。(知・技)</p> <p>【評】</p> <p>①講話を聞き、いろいろな視点でオリンピックを捉えることができる(思・判・表)</p> <p>②質疑応答を通して、より理解を深めることができる。(知・技)</p> <p>【評】</p> <p>3つ(4つ)の視点から、自分の興味・関心のあるテーマを設定する。(思・判・表)</p> <p>・Googleドキュメント、Word、手書きでまとめる。</p> <p>【評】</p> <p>①プレ発表会を通して、聞き手のことを意識して、発表内容を工夫し、表現することができる。(思・判・表)</p> <p>②次回の発表会に向けての準備ができる。(主)</p> <p>【評】</p> <p>①聞き手のことを意識して、自分のレポートを表現することができる。(思・判・表)</p> <p>②いろいろな視点でまとめたレポートを聞き、より深い学びにつなげることができる。(知・技)</p> <p>③仲間の発表を聞き、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表)</p> |

| | | |
|--|--|--|
| 9 | <p>○ブラジルと日本に関わる人や両国のつながりについて、テーマを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルと日本の両国につながりや関わりのあるテーマを設定する。 ・事前にアンケートを実施し、テーマを絞る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・両国に関わっている人物、歴史、文化、政治、オリンピックから見えたコロナ差別、人権、スポーツのよさなど、いろいろな視点からテーマを設定させる。 |
| 10 ～ 12 | <p>○テーマに沿って調べ、まとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍、インターネットなどを利用して情報を集め、整理・分析し、まとめる。 ・ペアを組み、発表練習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Google ドキュメントを活用し、まとめさせる。 |
| 13 ～ 14 | <p>○中間発表をしよう。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えたいのか、自分の考えがどのように広まったのか、など聞き手にわかりやすく伝える工夫をしたり、問題提起したりして、聞き手側にも考えてもらうような工夫をする。 ・聞き手側は、発表者の多種多様な考えを尊重し、質問や意見を述べ、自己の価値観を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・iPad等を利用して、発表できる環境を支援する。 ・集音マイクを設置し、相手に伝わるようにする。 <p>【評】</p> <p>①個人テーマに沿って、発信したい内容をわかりやすく伝えることができる。 (知・技)</p> <p>②仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。 (思・判・表)</p> <p>③自分の考えを表現することができる。 (思・判・表)</p> |
| 15 | <p>○中間発表の反省をし、最終テーマを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での友達からの意見を参考に、発表内容を工夫する。 | |
| 16 ～ 18 | <p>○最終発表に向けて、準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4名前後のグループを作る。 ・個人で作成したレポートをGoogle スライドでまとめ、世界に発信したい内容をより深く調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Google スライドを活用し、まとめさせる。 |
| 19 | <p>○ブラジルの地から日本や世界へ発信しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本または近隣の国へ、発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本や近隣の国へ発信できる遠隔授業環境を整える。 |
| 20 | <p>○「ブラジルと日本の架け橋になろう」についてのふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に行った発表のふり返りとその交流会を行う。 | <p>【評】自分たちが活動してきたことを整理し、今後の人生に生かすことができる。(主)</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルと日本のつながりを学び、発信することで、国際的なつながりをもつことができた。 ・世界に向けた広い視野をもつことができた。 | | |

6. 本時のポイント

【子どもが主体的に取り組むための学習展開】

- 「ブラジルと日本の架け橋になろう」ということが意識できる課題を工夫する。
- 相手の話を聞きとり、思ったことや感じたことを表現することができるよう、発表の後に交流の時間を設ける。
- 子どもたちが発表しやすいよう、機器環境を整え、端末等の操作を教師がサポートする。

【協働を通して学びを深めるための ICT の活用】

- zoom を使って、リアルタイムで交流授業を行う。
- 発表の提示資料をデジタル化することで、教師が異なる場所にいる児童生徒の実態をより理解できたり、異なる場所にいる子どもたちが同じ進度・方向性をもって授業に参加したりできるようにする。

7. 本時の目標

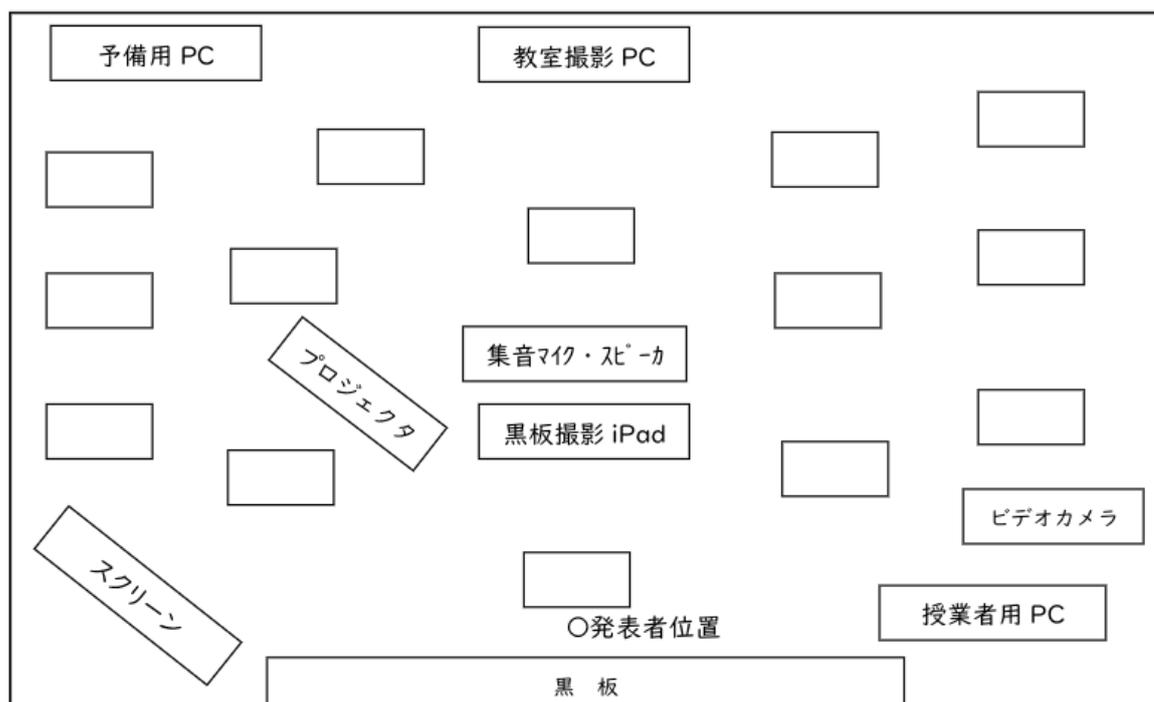
- 個人テーマに沿って、発信したい内容を分かりやすく伝えることができる。(知識及び技能)
- ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 多様な発表を聞いて、自分の考えを表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

8. 本時の展開(13/20) ※本時は13・14時間目の2時間連続とする。

| 主な学習活動と子どもの思考の想定 | 教師のかかわり |
|--|---|
| <p><前時までの活動や子どもの思考の流れ></p> <p>個人で設定したテーマを基に、書籍やインターネット等を利用し、調べたものを Google ドキュメントにまとめ、パートナーと発表するための準備を行ってきた。</p> <p>○はじめの挨拶</p> <p>○本時の課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ろう。</p> </div> <p>○発表順の確認</p> | <p>○本時の課題を提示する。</p> <p>○発表する側、聞く側の心構えを伝える。</p> <p>○プロジェクター、集音マイク、iPad 等を準備する。</p> |
| <p>○3つのテーマ(①人②食③もの)に沿って、個人での発表会を行う。</p> <p>①レポートの発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人3分以内の発表を行う。 ・住んでいるから分かるブラジルの素晴らしさを伝える。 ・聞き手にブラジルの素晴らしさを知ってもらう。 ・スクリーンの前で発表を行う。 ・パートナーが ICT 機器(PC等)を操作する。 <p>②感想の記入をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1分程度書く時間を確保し、新たな学びや深く知ることができたことをワークシートに記入する。 ・ワークシートの内容をブラジルのことについて、「新たに学んだこと」「深く知ることができたこと」という2点に絞り、感想を書く。 <p>③感想の発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人に書いたことを発表させる。 「○○について、初めて知ることができた。」 「△△について、自分も調べてみたいと思った。」 <p>※①と②を③繰り返して行う。</p> | <p>○司会役として、発表のサポートをする。</p> <p>○ICT 機器の操作のサポートをする。</p> <p>○新たな発見や共感した内容などを拾い上げ、フィードバックさせ、理解を深めさせる。</p> |
| <p>○まとめと次時についての連絡。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の総括を簡潔に伝える。 ・次時も続きを行うことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・分かりやすく発表内容を伝えることができた。</p> <p>・いろいろな形でブラジルと日本がつながっていることを知ることができた。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評】個人テーマに沿って、発信したい内容をわかりやすく伝えることができる。(知・技)</p> <p>仲間の発表を聞き、ブラジルと日本のつながりを深く知ることができる。(思・判・表)</p> <p>自分の考えを表現することができる。(思・判・表)</p> </div> |

【サンパウロ日本人学校】

| 使用機器 | 用途 |
|---|---|
| 授業者用 PC ミュート ON/ビデオ OFF | ・ZOOM 接続(ホスト・オーディオ接続有り、ビデオ接続有り)、リオデジャネイロ日本人学校と遠隔でつなぐ。 ・学習内容や発表資料を画面共有で提示する。 ・生徒が発表する際、資料提示(画面共有)等、操作する。 |
| 教室全体撮影 PC ミュート OFF/ビデオ ON ※集音マイクと連結 | ・ZOOM 接続。(オーディオ接続有り、ビデオ接続有り) ・教室の全体の撮影。 ・集音マイクのワイヤレス USB を差し込み、マイクはワイヤレスマイクを選択しておく。(集音マイクからの音声を送られてくる) |
| 黒板撮影 iPad ビデオ ON | ・ZOOM 接続。(オーディオ接続しない、ビデオ接続有り) ・黒板や授業者、発表者を撮影する。 |
| iPad 設置用三脚立て | ・黒板撮影 iPad を設置するための三脚。 |
| ワイヤレス集音マイク スピーカーとしても兼ねる | ・教室内の声をひろい、リオデジャネイロ日本人学校からの声を流す。 ・教室の中央に設置。 ・ワイヤレス USB を教室全体撮影 PC に差し込んでおく。 |
| 予備用 PC ミュート ON/ビデオ OFF | ・授業者用 PC の予備 PC として準備しておく。 ・ZOOM 接続が不良の場合に備え、ZOOM 接続。 (共同ホスト、オーディオ接続有り、ビデオ接続有り) |
| プロジェクター | ・授業者用 PC と接続し、スクリーンに映す。 |
| スクリーン | ・授業者用 PC 画面を映す。 |
| 研修用ビデオカメラ | ・校内事後研修用に授業の様子を録画する。 |



6 研究授業（中学校部会）

中学1・2年 総合的な学習の時間 「ブラジルと日本の架け橋になろう！」

サンパウロ日学（13名）とリオデジャネイロ日学（1名）の生徒

ブラジルと日本の架け橋になるために、「食」「人」「物」の3つのテーマに分かれて、個人で調べる・まとめる

＜本時＞個人テーマについての発表（前半）

- ・分かりやすく伝える
- ・ブラジルと日本のつながりを深く知る
- ・自分の考えを表現する

＜次時＞個人テーマについての発表（後半）

グループで調べる・まとめる・発表する **食2：RJ1名、SP3名**
(アグアスカリエンテス日学、サンホセ日学の生徒へ)

今日の授業の流れ

- ①1人3分以内でレポートの発表を行う。
- ②発表終了後、1分間の感想記入時間を設け、1分間質問や感想を交流する。
※特に新たな発見や深く知ることができたことを交流する



- ＜成果＞
- この総合的な学習の時間の前に、保健体育の体育理論の学習として「オリンピック」について、サンパウロ日学と遠隔合同授業を行い、サンパウロ在住の元リオデジャネイロオリンピック7人制女子ラグビー代表選手のお話を伺ったり、オリンピックについて関心のあることを調べてまとめたり、東京2020オリンピック・パラリンピックの観戦をして感想を発表したりする活動をしてきた。このことにより、両校の生徒が知り合い、この総合的な活動の時間においても、話し合いがスムーズにできるようになった。
 - 体育理論「オリンピック」での個人の活動が、総合的な学習の時間「ブラジルと日本の架け橋になろう」で3つのカテゴリーに分かれての個人での活動とそれをまとめたグループでの発表「移民が伝えた食文化」とつながった。

「パステウ」で繋がる日伯文化

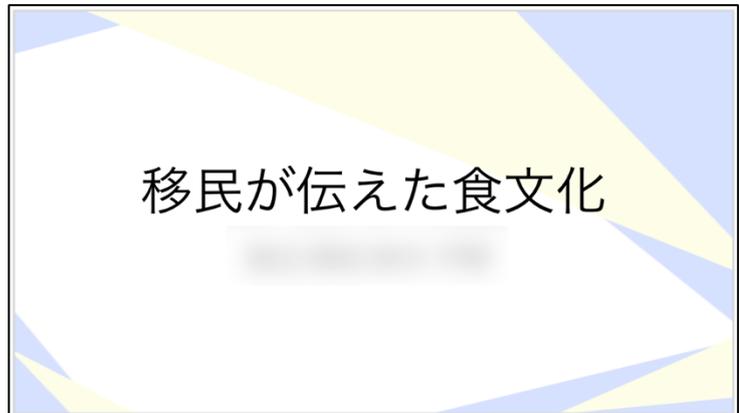
リオデジャネイロ日本人学校

1 テーマ設定の理由

何気に普段食べているパステウが日本とブラジルを繋ぐ大切な食べ物（後で説明）だという事を初めて知ったので、その事について詳しく知りたいと思ったから。ブラジルと日本の食事は味や見た目などは全く違うのに、特にブラジルでは日本食がよく食べられているから、食にはどんな関係があるのかと思ったから。

2 住んでるから分かる、ブラジルの食べ物の素晴らしさ

- Google ドキュメントや Google スライドなどで、調べたことや意見・感想などをまとめる活動において、フォルダを共有してお互いのまとめ方を参考にし、グループで話し合いながら1つのファイルを共同編集して、発表用のプレゼンを作り、発表について意見交換をすることができた。



- そして、「リオタイム発表会」（本校の生活科・総合的な学習の時間発表会）では、さらに個人で内容を深めて Google スライドや作画アプリを使い、絵本「パステウのはじまり」を作り、全校児童や保護者の前で発表をすることができた。



- この遠隔合同授業の経験などをもとに、他の学習においても、聞き手を意識しながら、Google スライドを使って調べたことをまとめて発表する活動ができた。

B 他校との交流

①リオデジャネイロ日本語モデル校

「C 本校の授業や行事 ③リオデジャネイロ日本語モデル校交流会」参照

②リオデジャネイロ連邦大学

「C 本校の授業や行事 ③リオデジャネイロ連邦大学交流会」参照

③ブラジル3校交流会（マナウス日学、サンパウロ日学、リオデジャネイロ日学）

| 学校名 | 学年 | 人数 |
|----------|----------|-----|
| マナウス日学 | 小学3・5年 | 3名 |
| サンパウロ日学 | 小学3年 | 12名 |
| リオデジャネイロ | 小学3・4・5年 | 7名 |

2021年10月26日 SP・RJ・マナウス合同授業「顔合わせ」(RJ 小学3、4、5年、SP 小学3年、マナウス小学3、5年)

ブラジルの3つの日本人学校の児童がオンラインでつながり、自己紹介やクイズをした。「ブラジルの鳥といえば？」の問いに、それぞれの学校の児童が自信をもって答えたが、それぞれ違って、みんな驚いていた。自分達の常識が、相手の常識ではないことに気づいた。

④アグアスカリエンテス日本人学校・サンホセ日本人学校

SP・RJ 中学校部会合同授業「ブラジルと日本の架け橋になろう」（9月16日）の後、発表内容を整理し、まとめて、グループで10月27日に、発表会を行った。その発表会には、アグアスカリエンテス日本人学校（メキシコ）、サンホセ日本人学校（コスタリカ）も参加し、感想を発表するなどした。

本校の生徒は、グループ発表「移民が伝えた食文化」で、ブラジルでよく食べられる「パステウ」は日本人が発明したという説に基づいた発表をした。

C 本校の授業や行事

①着任式、転入児童歓迎会、始業式、入学式（ハイブリッド）（4月12日）

行事

4月12日（月）「令和3年度 着任式」

3名の新派遣教員が
オンラインで参加



本日より、新年度がスタートしました。3名の教員がリオデジャネイロに到着し、新型コロナウイルス感染症対策の自粛期間のため、オンラインの着任式を行いました。



着任式は、在校生と保護者が参加し、体育館で行いました。児童生徒代表が歓迎の挨拶をしました。

4月12日（月）「令和3年度 転入生歓迎会」

2名の転入生が
オンラインで参加



小学3年生1名、小学5年生1名が日本の学校から転入しました。新型コロナウイルス感染症対策の自粛期間のため、オンラインでの参加でした。



児童代表があいさつをし、日学ファミリーが増えました。

4月12日（月）「令和3年度 始業式」

新派遣教員と転入生も
オンラインで参加



校長先生の話



児童代表が、今年頑張りたいことを発表し、新しい年度が始まりました。

②リオ日学OG・OB交流会（5月14日）

5月14日（金）「リオ日学の先輩の話を聞こう」



コズメペーリョ、サンタテレザ、両方の時代を知っている10名の日学OB、OGさんと交流しました。



当時の思い出やお仕事の話など、2時間があっという間にすぎたお話でした。くわしくは、「50周年のページ」をごらん下さい。

③リオデジャネイロ日本語モデル校交流会（5月15日）

「リオデジャネイロ日本語モデル校」は、ブラジルの人が日本語を学ぶための学校で、コロナ禍の前は、本校と同じ教室を土曜日に使用していた。そのため、毎年交流会をもち、運動会や文化祭などいろいろな行事で交流していた。しかし、昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、リオデジャネイロ日本語モデル校の授業が全部家庭からのオンライン授業となり、本校と一度も交流する機会がもてなかった。

そこで、今年度は、オンラインでの交流会をすることになった。リオデジャネイロ日本語モデル校の生徒は、小学生から60歳以上と幅広いことと、日本語のレベルも様々である。そのため、本校児童生徒は、ポルトガル語で自己紹介を練習したり、オンラインで楽しめる交流内容を工夫したりした。

5月7日（金）「総合的な学習 リオデジャネイロ日本語モデル校交流に向けて」



5月15日のモデル校交流にむけて、自己紹介を日本語だけでなくポルトガル語でも書くために、翻訳アプリなども上手に使って調べました。



高学年はローマ字入力、低学年は手書き入力や五十音入力をして、自分の誕生日や好きなこと、将来の夢などを翻訳して、ポルトガル語で書いていました。

当日は、リオデジャネイロ日本語モデル校の生徒約40名と教員約10名が交流会に参加した。本校の保護者はオンラインでこの様子を参観した。約3時間の交流で、途中で本校のインターネット接続が切れてしまうトラブルはあったが、接続が復旧し、交流を深めることができた。

5月15日（土）「リオデジャネイロ日本語モデル校との交流会」

日本語を学ぶブラジルの
の方たちと
4つのグループで
オンライン交流会



リオデジャネイロ日本語モデル校の生徒や先生たちも参加して、60人以上でオンライン交流会をしました。両校で自己紹介をした後、クイズやしりとり、早口言葉などで交流を深めました。



日本語とポルトガル語で司会やあいさつをしました。たくさんの方に子どもたちのがんばりを見てもらいました。これからも、交流を続けていきたいです。

また、「Padlet」というオンライン掲示板を活用した。事前や当日に、自己紹介や感想などの書き込みをした。

(子どもたちの感想から)

みなさんへ

はやくちことばがむずかしかった。しょうかいが楽しかった。しりとりがむずかしかった。くいずがたのしかった。ひよりさんがだしたもんだいぜんぶあってうれしかった。

5月15日

みなさんへ

ぼくは、じこしょうかいがドキドキしたけどなれてきたら楽しかったです。早口言ばがむずかしかったです。ぼくが一ばんたのしかったのは、絵のしりとりです。なぜかと言うと、ぼくは、しりとりがです。インターネットでもたのしかったです。またモデル校の人たちとあそびたいです。今どは、もっといっぱいあそびたいです。ムイントオブリガードありがとうございます。

振り返り

最初はインターネット回線が良かったけど、ブレイクアウトルームに分かれた時に回線が悪くなってしまったので、ちゃんと成功するのか心配だったけど、その後パソコン一台で再開できて良かったです。

ポルトガル語の早口言葉は初めてだったけど、とても楽しかったです。

クイズもとても楽しめました。

日本語モデル校の皆さんが、私が思っていたよりずっとずっと日本語が得意だったので、私もポルトガル語をしっかりと勉強しようと思いました。

1番緊張したのは、自己紹介です。

なぜなら、しっかりとポルトガル語で伝えないと、相手に伝わってくれないからです。

でも、モデル校の皆さんは私の自己紹介を聞いて知ったり頷いてくれたので、嬉しかったです。

もっともっと仲良くなりたいです。

皆さんへ オンラインの交流会は成功したことを嬉しいです。今日の授業中、生徒たちは交流会がとても楽しかったと言いました。それは皆さんの努力のおかげです。本当にありがとうございます！次回は直接会いたいです。これからもよろしく願いいたします。

皆さんへ

この度、楽しい交流会をありがとうございました。両校の生徒たちすごく楽しんだみたいです。初めてのオンライン交流会で不安なところはあったと思いますが結局大成功でした。次回の交流会を楽しみにしています。

05月19日

リオ日本人学校の先生方へ

お礼が遅くなりましたが、先日の交流会では大変お世話になりました。リオ日本人学校の生徒さんたちと本校の生徒たちが画面を通じて、楽しそうに交流をしている姿を見ることができ、大変嬉しく思いました。

今回は例年と違い、初めてのオンライン交流会でしたので、慣れていないため、日本人学校の皆様には多々ご迷惑をお掛けしたことと思いますが、無事に終了することができてホットしているというのが正直な気持ちです。

いろいろと本当にありがとうございました。

これからも、よろしく願いいたします。

5月20日

日本人学校の先生方へ

初めてのオンラインでの交流会という大胆な挑戦にも関わらず、3時間にかけてたくさんのゲームや遊びを通して新たな情報をいただき、うれしく思っております。そして、難しい早口言葉で挑戦した日本人学校の生徒たちの笑顔が素敵でかけがえのない一時だと思っております。子供たちの無邪気な笑顔と素直なリアクションを拝見し、日本で公立学校に勤めていた頃の事を思い出し、その素敵な雰囲気にも囲まれながらいい思い出ができたと思います。次回の交流の場が何時になるか存じませんが、心から楽しみにしております。今後ともよろしく願い致します。

5月21日

モデル校のせんせいがたへ

こうりゅうかいで、たのしいゲームをありがとうございました。こどもたちもたのしそうにしていて、あんしんしました。

このことをきっかけに、こうりゅうがすすんでおたがいにもとなかよくなれたら、うれしいです。

とちゅう、インターネットがつかいながらごめいわくをおかけしました。

また、ゲームなどをやりましょう。

Obrigado pelo jogo divertido. As crianças estavam ansiosas por isso e eu fiquei aliviado.

Seria ótimo se Koryu continuasse a melhorar um com o outro como resultado disso.

Lamento que a internet não tenha sido conectada.

Além disso, vamos jogar.

とても、楽しい会でした。みなさん日本語がじょうずでした。私は、とてもおどろきました。私も、みなさんにまけないように、ポルトガル語のれんしゅうをがんばります。

また、みなさんとこうりゅうしたいです。

Muito obrigado !

④リオデジャネイロ連邦大学交流会（9月20日）

2019年度までは、本校児童生徒がリオデジャネイロ連邦大学を訪問して交流会をしたり、本校の運動会や文化祭などに来ていただき交流をしていたが、昨年度は新型コロナの影響で一度も交流することができなかった。

本年度は、リオデジャネイロ連邦大学の日本語学科の学生約40名と、4つのグループに分かれて、オンラインで交流会をした。



音楽室



体育館

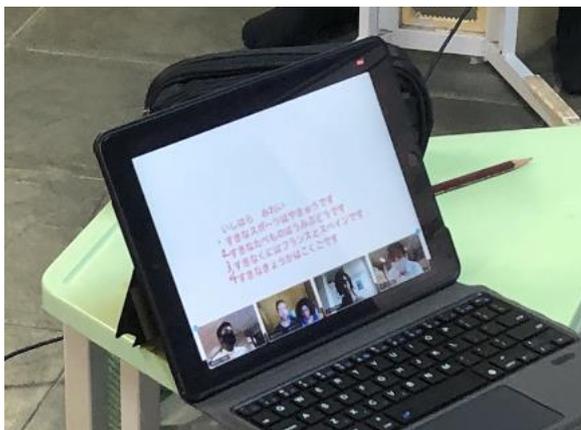


3年教室



1・2年教室

自己紹介やクイズ、ポルトガル語の早口言葉をした。また、数年前にリオデジャネイロ連邦大学の学生と本校児童生徒が作った「リオデジャネイロ音頭」を本校児童生徒が踊り、リオデジャネイロ連邦大学の学生に教え、一緒に踊って楽しむことができた。



<遠隔研修>

D サンパウロ日本人学校との合同研修会、各部会での話し合い

①SP・RJ 合同研修会（4月、8月、11月）

年3回、合同研修会を実施し、研究の方向性の共通理解を図り、各部会の研究授業の報告と意見交換をした。

第1回 RJ・SP 2校合同研修会（4月23日）

令和3年4月20日

運営：各校研究部

第1回 RJSP 2校合同研修会

【日時】 令和3年4月23日（金）15：45～16：45

ZoomのIDとパスコードは別途送ります。

【研修会の流れ】

1. 学校長挨拶

リオデジャネイロ日本人学校 校長 渡辺 稔
サンパウロ日本人学校 校長 曾川 和則

2. 今年度の合同研究について

2校合同研究主題

多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、
協働できる子どもの育成（高度グローバル人材の育成）

3. 今年度の研究日程について

4月23日（金） 第1回 RJSP 合同研修会
・各部会での顔合わせ
・今年度の各部会研究授業についての検討

5月中旬 各部会の授業学年・教科・単元・実施時期等決定

6月以降 授業実践開始

8月 第2回 RJSP 合同研修会（各部会の研究授業予定と経過）

11月 第3回 RJSP 合同研修会（各部会の実践報告）

1月 第4回 RJSP 合同研修会（まとめ報告、来年度に向けて）

AG5 4校合同研修会 各校の研究発表

*毎月、AG5 4校合同研修会

*研究成果は、パターンランゲージ等を活用し、web上にアップロードする。

4. 各部会での授業検討

- ・低学年部会、高学年部会、中学校部会の3つの部会に分かれて行います。
- ・簡単な自己紹介を行った後、今年度の合同研究授業の【授業学年・教科】
【実施単元】【実施時期】について、検討を進めてください。
- ・16：45をめぐりに各部会ごとに話し合いを終了し、そのままご退出ください。
- ・時間内に意見がまとまらなかった場合は、各部会で今後の話し合いの日程を決めてください。
- ・どなたか1名が話し合いの記録を取り、自校の研究主任まで提出をお願いします。

第2回 RJ・SP 2校合同研修会（8月25日）

令和3年8月20日

運営：各校研究部

第2回 RJSP 2校合同研修会

【日時】令和3年8月25日（水）15：35～15：55

Zoom の ID とパスワードは別途送ります。

【研修会の流れ】

1. 学校長挨拶

リオデジャネイロ日本人学校 校長 渡辺 稔
サンパウロ日本人学校 校長 曾川 和則

2. 7月8日（木）低学年部会研究授業を振り返って

各校の研究討議内容の報告

- ・リオデジャネイロ日本人学校より
- ・サンパウロ日本人学校より
- ・低学年部会より

3. 今年度の研究推進日程について

8月25日（水） 第2回 RJSP 合同研修会
・低学年部会研究授業を振り返って
・2学期の研究推進日程について

9月 7日（火） 中学校部会指導案提出締め切り
16日（木） 中学校部会研究授業（13：40～）
24日（金） 高学年部会指導案提出締め切り

10月 4日（月） 高学年部会研究授業（時間は未定です）

11月 第3回 RJSP 合同研修会（各部会の実践報告）

1月 第4回 RJSP 合同研修会（まとめ報告、来年度に向けて）
AG5 4校合同研修会 各校の研究発表

※そのほか、月に一回 AG5 4校合同研修会を行います。

※適時、授業づくり部会を行っていただきます。時間のない中のご協力、誠にありがとうございます。

4. 連絡等

令和3年11月19日

運営：各校研究部

第3回 RJSP 2校合同研修会

【日時】 令和3年11月24日（水）15：35～15：55

ZoomのIDとパスコードは別途送ります。

【研修会の流れ】

1. 学校長挨拶

リオデジャネイロ日本人学校 校長 渡辺 稔

サンパウロ日本人学校 校長 曾川 和則

2. 9月16日（木）中学校部会研究授業を振り返って

各校の研究討議内容の報告

- ・リオデジャネイロ日本人学校より
- ・サンパウロ日本人学校より
- ・授業者の先生方より

3. 10月4日（月）高学年部会研究授業を振り返って

各校の研究討議内容の報告

- ・サンパウロ日本人学校より
- ・リオデジャネイロ日本人学校より
- ・授業者の先生方より

4. 今後の研究推進日程について

11月24日（水） 第3回 RJSP 合同研修会

・中学校部会研究授業を振り返って

・高学年部会研究授業を振り返って

1月

第4回 RJSP 合同研修会（まとめ報告、来年度に向けて）

AG5 4校合同研修会 各校の研究発表

4. 連絡等

②SP・RJ各部会（低学年部会、高学年部会、中学校部会）

各部会で教育についての情報交換をするとともに、遠隔合同授業、研究授業、交流授業について話し合い、実践をした。

③児童・生徒、教員アンケート(6月、11月)

サンパウロ日本人学校と相談し、児童・生徒アンケートと教員アンケートを実施した。遠隔教育に関わる質問を中心に、児童・生徒と教員が共通の質問項目で回答し、それを集計し、考察した。

両校で児童生徒・教員アンケート(6月、11月)

24の質問項目

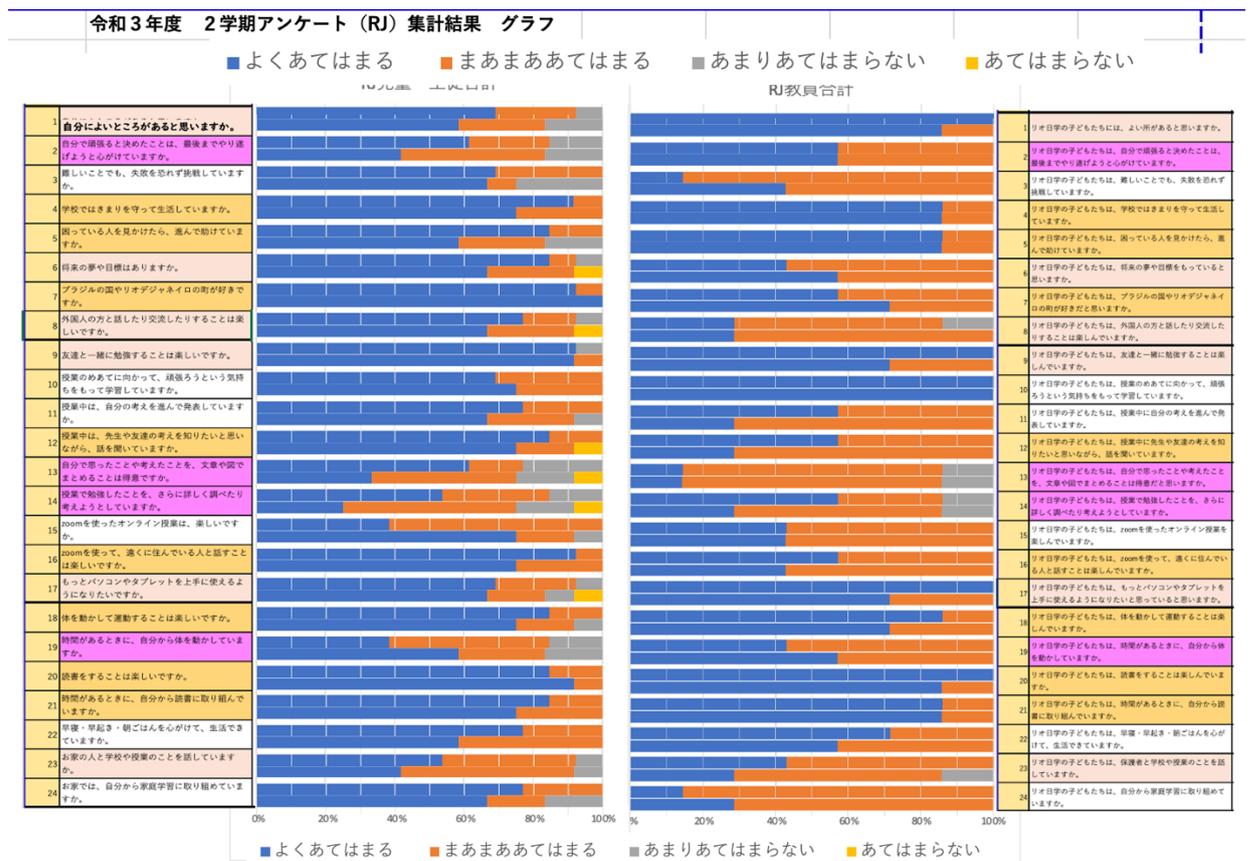
・自分の心(8項目) ・学校での学習(9項目) ・毎日の生活(7項目)

<例>

3「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか」
 7「ブラジルの国やサンパウロ(リオデジャネイロ)の町が好きですか」
 8「外国の人と話したり交流したりすることは楽しいですか」
 9「友達と一緒に勉強することは楽しいですか」
 11「授業中は、自分の考えを進んで発表していますか」
 15「zoomを使ったオンライン授業は、楽しいですか」
 16「zoomを使って、遠くに住んでいる人と話すことは楽しいですか。」

変容: 全体的に見ると、6月より11月の方が数値が上昇している。実践の結果が表れている。

<本校の結果> 上段は6月、下段は7月の結果



*人数が少ないので、この結果を単純に見ることはできない。「よくあてはまる」「まあまああてはまる」を合わせると、ほぼ良い状況である。個別に対応する必要もある。

E AG5の4校合同研修会、研究主任者会議、研究発表会

① 4校合同研修会

毎月の4校合同研修会では、JOESの後藤教育相談員のコーディネート、明治大学の岸先生の指導により、4校（リオデジャネイロ日本人学校、サンパウロ日本人学校、サンホセ日本人学校、アグアスカリエンテス日本人学校）の教員が、本年度は遠隔合同授業の4つのパターンについての意見交換や研究のまとめ方などについて研修し、遠隔合同授業「知恵の蔵」（パタンランゲージ）や研究授業についての映像、研究発表会、研究報告書などの実践成果をwebページにまとめるための活動などをした。

② 研究委主任者会議

研究発表会（2022年1月21日）に向け、AG5全体や研究連携協力校のペア、各校の研究をまとめたプレゼン内容や発表会のやり方などについて、JOESの後藤さんのコーディネートで、各校の研究主任が12月と1月に話合った。

③ 研究発表会（2022年1月21日）

（1）AG5テーマ6全体の研究発表

4校で2019年度より取り組んだ、AG5テーマ6「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」について発表した。

（AG5テーマ6に関する研究発表プレゼン資料）

2021年度

AG5：在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業
テーマ6

「ICTを活用した遠隔での教育の 質向上のためのプログラム開発」 ＜研究概要＞

アグアスカリエンテス日本人学校・サンホセ日本人学校
サンパウロ日本人学校・リオデジャネイロ日本人学校

2022年1月21日

AG5 テーマ6 「ICTを活用した遠隔での 教育の質向上のためのプログラム開発」

目次：

- 1 研究の目的
- 2 研究組織
- 3 研究の背景
- 4 研究テーマ
- 5 研究の経緯（令和元年度～令和3年度）
- 6 成果
- 7 展望

2

1 研究の目的

AG5

テーマ6



サンホセ
日本人学校
学校教育目標
知・徳・体の調和のとれた教育を目指すとともに、国際性豊かな人材の育成を図る
－日本よりも日本らしく、世界に羽ばたくグローバル人材の育成－

アグアスカリエンテス
日本人学校
学校教育目標
国際性豊かで、『知徳体』の調和のとれた日本人の育成
「学んだことを活かす子ども」「体力に富む子ども」「豊かな心を持つ子ども」「メキシコや日本を愛する子ども」

サンパウロ
日本人学校
学校教育目標
豊かな人間性、確かな学力、たくましい体をもち、国際社会で信頼と尊敬を得る人間の育成

リオデジャネイロ
日本人学校
学校教育目標
「自分を磨く子」一人一人が自分の可能性を信じ、出会いを大切にしながら成長しようとする学校づくり

3

1 研究の目的

AG5

在外教育施設における
高度グローバル人材育成拠点事業
(Advanced Global human resource)

テーマ6

ICTを活用した遠隔での教育の
質向上のためのプログラム開発

ICTを活用した
遠隔教育

SJ・AC・RJ・SP
各学校教育目標

サンホセ
日本人学校
学校教育目標
知・徳・体の調和のとれた教育を目指すとともに、国際性豊かな人材の育成を図る
-日本よりも日本らしく、世界に羽ばたくグローバル人材の育成-

アグアスカリエンテス
日本人学校
学校教育目標
国際性豊かで、『知徳体』の調和のとれた日本人の育成
「学んだことを活かす子ども」「体力に富む子ども」「豊かな心を持つ子ども」「メキシコや日本を愛する子ども」

サンパウロ
日本人学校
学校教育目標
豊かな人間性、確かな学力、たくましい体をもち、国際社会で信頼と尊敬を得る人間の育成

リオデジャネイロ
日本人学校
学校教育目標
「自分を磨く子」一人一人が自分の可能性を信じ、出会いを大切にしながら成長しようとする学校づくり

2 研究組織

AG5 在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業
(Advanced Global human resource)

- テーマ1
- テーマ2
- テーマ3
- テーマ4
- テーマ5
- テーマ6**
- テーマ7
- テーマ8

テーマ6 : ICTを活用した遠隔での教育の質向上のための
プログラム開発

AG5事務局

研究チーム

研究連携協力校

9名

サンホセ日学
(コスタリカ)



53名

アグアスカリエンテス日学
(メキシコ)



研究連携協力校

89名

サンパウロ日学
(ブラジル)



13名

リオデジャネイロ
日学
(ブラジル)

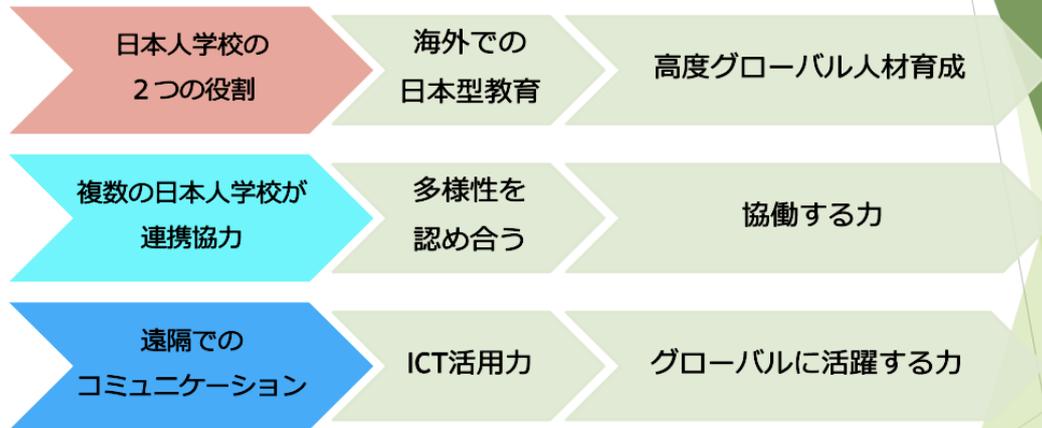


時差無し
(サマータイム時は時差1時間)

時差3時間

時差無し

3 研究の背景



SJ・RJ：小規模校（児童生徒数：約10名）

AC・SP：中規模校（児童生徒数：約50～90名）

連携協力校どうして、時差はなく、小規模と中規

模校の組み合わせ（SJとACはサマータイム時は1時間時差）

6

3 研究テーマ

テーマ6：ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発

サンホセ日本人学校とアグアスカリエンテス日本人学校の研究主題

思考力，判断力，表現力を育む遠隔学習の在り方

サンパウロ日本人学校とリオデジャネイロ日本人学校の研究主題

多様性を受け入れ、
柔軟で豊かなコミュニケーション力をもち、
協働できる子どもの育成

7

4 研究の経緯（2019～2020年度）

<1年次（2019年度）>

- ・ 合同会議、職員の連携、合同授業の基盤づくり（接続実験等）
- ・ 【研究授業】・合同授業・合同研修

つないでみよう！
交流しよう！

AG5現地学習会（2月）

- ・ 4校（サンホセ、アグアスカリエンテス、サンパウロ、リオデジャネイロ）合同研修会
- ・ 1年次のまとめ

遠隔教育（授業、研修）とは、どういうものか。
どうやれば、うまくつながるのか、何が課題でどうすればよいか。

<2年次（2020年度）>

- ・ 各校での遠隔授業・遠隔での学校行事等
- ・ 合同研究主題の設定・【研究授業】・合同授業・合同研修
- ・ 4校（サンホセ、アグアスカリエンテス、サンパウロ、リオデジャネイロ）合同研修会
- ・ AG5ヒアリング（各校）
- ・ 2年次のまとめ

たくさんの遠隔実践から、
ノウハウを蓄積しよう！

遠隔教育（授業、研修）に関する研究実践をどう進めていくのか。
どうやって、情報を共有し、他校に役立つまとめができるのか。

遠隔教育環境整備

8

現地研修会 2020年2月

<AG5事務局>
・ チームリーダー
・ 教育相談員

各校を訪問して

遠隔授業や学校の様子を見る

研究実践について話し合う

「海外子女教育」に関する講演会
（児童生徒、保護者・教員）

サンホセ
日本人学校
(SJ)
コスタリカ

アグアスカリエンテス
日本人学校
(AC)
メキシコ

サンパウロ
日本人学校
(SP)
ブラジル

リオデジャネイロ
日本人学校
(RJ)
ブラジル

コロナ禍の為、現地研修会
は実施できなかったが、
公開授業を行った

9

5 本年度の実践（2021年度）

<3年次（2021年度）>

毎月の4合同研修会、校長会議

AG5研究チームのヒアリング

遠隔教育環境整備

- ・ 2校合同研修会（本年度の方針、計画確認）
- ・ 7月、9月、10月【研究授業】
- ・ 11月 2校合同研修会（研究授業ふりかき）
4校合同研修会（研究の概要発表 2グループ）
- ・ 12月 4校合同研修会（11月発表内容について質疑等）
- ・ 1月 4校合同研修会（研究発表会 4校）
- ・ 2月 4校合同研修会（研究のふりかきと展望）

遠隔教育の研究実践を共有しよう!

AG5研究チーム
「知恵の蔵」(パターンランゲージ)
Webページ

各校報告書

10

6 成果

つなぐ
ためす

遠隔教育の
実践・研修

- ・ 4校合同
- ・ 各グループ
- ・ 各校

話し合う
工夫する

遠隔教育の
工夫・改善

- ・ 課題を見つける
- ・ 方法を工夫する
- ・ 環境を改善する

まとめる
広める

遠隔教育の
情報共有

- ・ 研究発表、報告書
- ・ webページ
- ・ 「知恵の蔵」
(パターンランゲージ)

成果：3年間の実践・研究のプロセスと成果物の情報共有

11

6 成果

- 遠隔授業の実施により、教員も子供たちも日常的なICTツールの活用が進んだ。

(継続的な実践と明確な目標設定により、タブレットやPC、アプリの使用が日常的になり、自分のツールとして扱えるようになってきた。)

ICT活用能力の向上

- 遠隔授業の実施により、遠隔授業だけでなく日常の授業でも、友達の考えと自分の考えを比較し、異なるところや関連するところを整理することができるようになったり、積極的に他者に学んだことを発信しようとする児童生徒の姿がよく見られるようになった。

相手意識をもつ

- 遠隔授業や研修の実施により、遠隔教育をより快適に効果的に行うためのICT環境づくりや授業内容、方法について、工夫や改善が見られた。

遠隔授業の環境整備

- ▶ 研究発表、報告書

「月次報告まとめ」 2019年度の取り組みと成果 2020年度の取り組みと成果 2021年度の取り組みと成果

- ▶ 研究レポート (AG5のテーマ6のwebページ) <https://ag-5.jp/report/theme7> NEW WEBサイト

遠隔合同授業のためのルーブリック 遠隔合同授業のパターンランゲージ 遠隔合同授業の4つの型
オンラインの取り組み事例 オンライン合同遠隔研修/教材まとめ 遠隔合同授業に関する映像

1 2

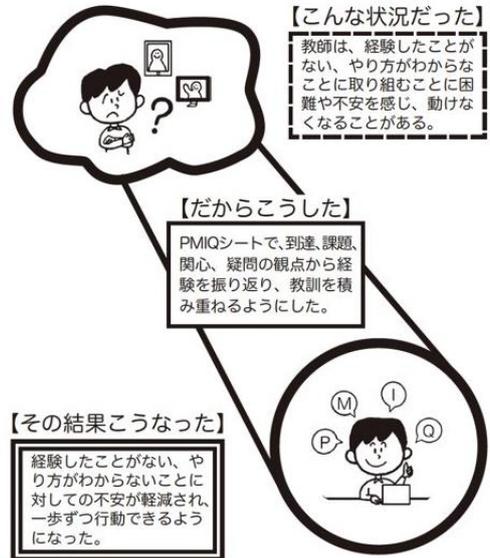
6 成果



1 3

小さな積み重ねを一步ずつ

遠隔合同授業の 「知恵の蔵」 (パターンランゲージ)



1 4

7 展望

継続

遠隔教育研究実践（合同授業、合同研修）を続けていく

拡張

多様な人や学校とつながっていく

深化

より効果的な遠隔教育に挑戦し、改善し、共有する

1 5

(2) リオデジャネイロ日本人学校・サンパウロ日本人学校の共同研究発表

2校で2019年度より研究連携協力校としてのAG5テーマ6「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」の研究実践に取り組み、2020年度より共同研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」について、低学年部会、高学年部会、中学校部会で取り組んだことについて発表した。

(RJ・SP共同研究発表プレゼン資料)

AG5 在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業
テーマ6 「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」
サンパウロ日本人学校・リオデジャネイロ日本人学校
研究主題 「多様性を受け入れ、
柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、
協働できる子どもの育成」
2022年1月21日

1

SP・RJ研究発表：

- 1 研究の背景（町の様子、各校の様子）
- 2 研究の目的
- 3 研究主題
- 4 研究の経緯（2019～2020年度）
- 5 本年度の実践（2021年度）
- 6 研究授業等
- 7 成果と課題
- 8 展望

2

1 研究の背景 <町の様子>

サンパウロとリオデジャネイロ（ブラジル）



約500km
東京ー大阪間くらい
時差なし



3

1 研究の背景 <各校の様子>

サンパウロ日本人学校 (SP)



中規模
小:76名
中:13名

郊外、標高730メートルの丘、約12万平方メートルの自然豊かな広い敷地（コーヒー園、釣り堀、バナナ園など）
中学3年はいない。

リオデジャネイロ日本人学校 (RJ)



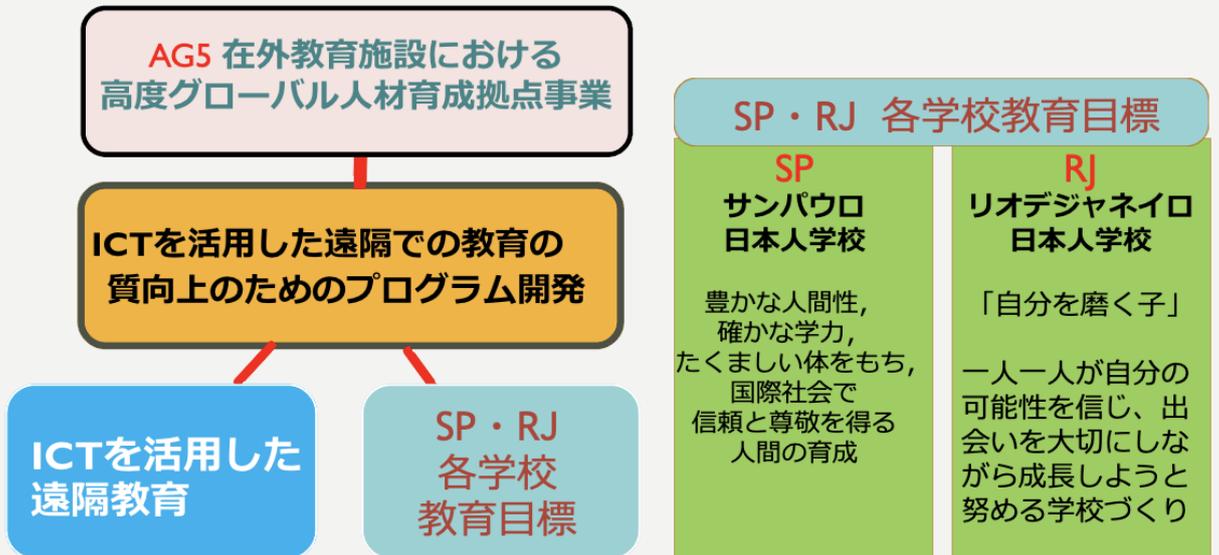
小規模
小:12名
中:1名

海と山、街に近い。
狭い敷地、体育館で全員で遊ぶ
小学部：1年2名、2年2名、3年2名、4年1名、5年3名、中学部：1年1名



4

2 研究の目的



5

3 研究主題

サンパウロ日本人学校・リオデジャネイロ日本人学校 合同研究主題

多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力をもち、協働できる子どもの育成



6

4 研究の経緯（2019～2020年度）

<1年次（2019年度）>

- ・ 合同会議、職員の連携、合同授業の基盤づくり（接続実験等）
- ・ 【研究授業】小学5年 道徳教育 「同じ空の下で」
- ・ プログラミング教育を中心に合同授業（サンホセとも）、合同研修
- ・ 4校（サンホセ、アグアスカリエンテス、サンパウロ、リオデジャネイロ）合同研修会

つないでみよう！
交流しよう！

<2年次（2020年度）>

- ・ 各校での遠隔授業、行事
- ・ 合同研究主題の設定
- ・ 3つの部会での取り組み【研究授業】低学年：国語、高学年：総合、中学校：総合
- ・ 4校（サンホセ、アグアスカリエンテス、サンパウロ、リオデジャネイロ）合同研修会

新型コロナの影響で、対面授業ができない
「学びを止めない」ために遠隔教育を！

多様性を受け入れ、
柔軟で豊かなコミュニケーション力をもち、
協働できる子どもの育成

たくさんの遠隔授業
実践から、ノウハウ
を蓄積しよう！

7

5 本年度の実践（2021年度）

<3年次（2021年度）>

- ・ 5月 2校合同研修会（本年度の方針、計画確認）
- ・ 7月 低学年部会研究授業
- ・ 8月 2校合同研修会（低学年部会研究授業ふりかえり）
- ・ 9月 中学校部会研究授業
- ・ 10月 高学年部会研究授業、マナウス、SP、RJの3校交流会 中学部発表会
- ・ 11月 2校合同研修会（中学校部会・高学年部会研究授業ふりかえり）
4校合同研修会（研究の概要発表 2グループ）
- ・ 12月 4校合同研修会（11月発表内容について質疑等）
- ・ 1月 2校合同研修会（研究のまとめと来年度への展望）
4校合同研修会（研究発表会 4校）マナウス、SP、RJの3校交流会
- ・ 2月 4校合同研修会（研究のふりかえりと展望）

* 4校合同研修会は毎月参加

アグアスカリエンテス、
サンホセの中学部生徒
に聞いてもらい、感想
を交流した。

遠隔教育の
研究実践を
共有しよう！

8

6 研究授業（低学年部会）

小学3年 総合的な学習の時間
「ほかの町に住む友だち」



サンパウロ日学の児童

リオデジャネイロ日学の児童

リオデジャネイロの町について
調べる・まとめる・発表する

サンパウロの町について
調べる・まとめる・発表する

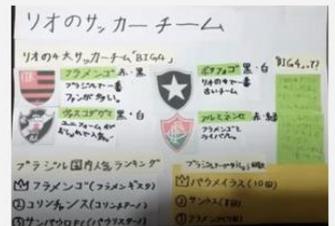
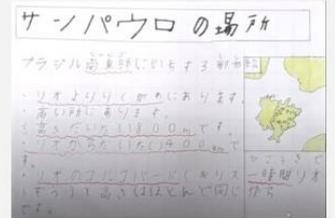
＜本時＞発表会

- ・相手に伝わりやすく表現する
- ・相手の話をしっかり聞く
- ・相手の児童への理解を深める
- ・自分の町の魅力を再発見する

発表から交流へ

この経験を他の交流に生かす

例：リオデジャネイロ連邦大学交流会



9

6 研究授業（高学年部会）

小学4・5年 総合的な活動の時間
「ブラジルを好きになる、もっと好きになる
～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」



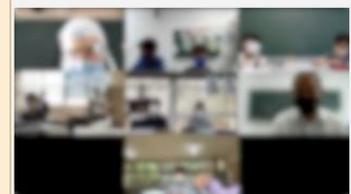
サンパウロ日学とリオデジャネイロ日学の児童

サンバについて、「踊り」「音楽」「衣装」の3つのグループに分かれて、調べる・まとめる・発表する

＜本時＞中間発表のふりかえりをして、より良い発表にしてい

3つのグループの発表会

マナウス日学も交えたブラジル3校交流会へ

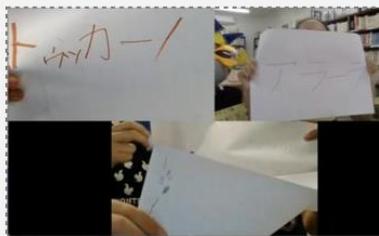
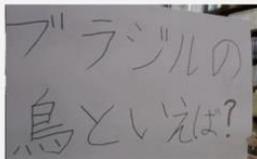


10

6 ブラジル3校顔合わせ会

オンラインで仲良くなろう！

マナウス日学 (小学3・5年 3名)
 サンパウロ日学 (小学3年 12名)
 リオデジャネイロ (小学3・4・5年7名)



11

6 研究授業 (中学校部会)

中学1・2年 総合的な学習の時間
 「ブラジルと日本の架け橋になろう！」

サンパウロ日学 (13名) とリオデジャネイロ日学 (1名) の生徒

ブラジルと日本の架け橋になるために、「食」「人」「物」の3つのテーマに分かれて、個人で調べる・まとめる

<本時> 個人テーマについての発表 (前半)

- ・分かりやすく伝える
- ・ブラジルと日本のつながりを深く知る
- ・自分の考えを表現する

<次時> 個人テーマについての発表 (後半)

グループで調べる・まとめる・発表する **食2: RJ1名、SP3名**
 (アグアスカリエンテス日学、サンホセ日学の生徒へ)

今日の授業の流れ

- ①1人3分以内でレポートの発表を行う。
- ②発表終了後、1分間の感想記入時間を設け、1分間質問や感想を交流する。
 ※特に新たな発見や深く知ることができたことを交流する



12

7 成果と課題（アンケート）

両校で児童生徒・教員アンケート（6月、11月）

24の質問項目

・自分の心（8項目） ・学校での学習（9項目） ・毎日の生活（7項目）

<例>

- 3「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか」
- 7「ブラジルの国やサンパウロ（リオデジャネイロ）の町が好きですか」
- 8「外国の人と話したり交流したりすることは楽しいですか」
- 9「友達と一緒に勉強することは楽しいですか」
- 11「授業中は、自分の考えを進んで発表していますか」
- 15「zoomを使ったオンライン授業は、楽しいですか」
- 16「zoomを使って、遠くに住んでいる人と話すことは楽しいですか。」

変容：全体的に見ると、6月より11月の方が数値が上昇している。実践の結果が表れている。

13

7 成果と課題

多様性

コミュニケーション力

協働できる

遠隔授業のICT環境整備

ICT活用能力

相手意識をもって協働する力

経験を本当の力に

高度グローバル人材の
資質形成へ

- ◆ サンパウロとリオデジャネイロ
- ◆ ブラジルと日本

町

人

自然

文化

- ◇ 相手の違いを認め、思いやる
- ◇ 自分の町、学校、国、自分自身が好きになる
- ◇ いっしょに挑戦し、課題解決し、やり遂げる

14

7 展望

多様性を認め合う

豊かなコミュニケーション力

協働できる

遠隔授業を
日常的に

続ける

遠隔教育
実践

ICT活用能力・
コミュニケーション力

広げる

2校間
4校間

他の学校
人・団体

深める

遠隔教育
研究

情報共有
公開

高度グローバル人材育成拠点として
選ばれる
教育の質の高い
日本人学校

(3) 本校（リオデジャネイロ日本人学校）の研究発表

本校で2019年度より取り組んだ、AG5テーマ6「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」、サンパウロ日本人学校との共同研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」についての研究実践、本校での遠隔教育についての取り組みを発表した。

(本校の研究実践に関する発表プレゼン資料)

研究主題

「多様性を認めあい

柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち

協働できる子どもの育成」



高度グローバル人材育成拠点事業
「ICTを活用した遠隔での
教育の質向上のための
プログラム開発」

リオデジャネイロ日本人学校
2022年1月21日

1

リオデジャネイロ 日本人学校 研究発表目次

1 本校の紹介

2 研究主題

3 研究実践

4 成果

5 展望

2

1 本校の紹介

(リオデジャネイロ日本人学校)

児童・生徒 (13名)

小学部

1年 2名

2年 3名

3年 2名

4年 1名

5年 4名

中学部

1年 1名

教員 (10名)

校長

総務、専科担当

小1,2年担任

教務主任、小3,4年担任

小5,6年担任

中学部担任

研究主任、専科担当

専科講師 3名

研究部

3

2 研究主題

(リオデジャネイロ日本人学校)

リオデジャネイロ日本人学校
サンパウロ日本人学校
合同研究主題

多様性を受け入れ
柔軟で豊かなコミュニケーション力をもち
協働できる子どもの育成

遠隔教育

高度グローバル人材育成拠点事業

「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」

AG5テーマ6に
4校で取り組む

本校学校教育目標「自分を磨く子」

自分の可能性を信じ、直面する課題に挑戦しながら成長しようと努める学校づくり

小規模校

在外教育施設

リオデジャネイロ

4

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

ICT環境

遠隔授業用時間割表
(授業リンク付き)

インターネット
回線増設

校内LAN
(配線、機器)

タブレット・PC端末
(児童生徒・教員)

WEBカメラ
マイク・スピーカー

タブレットスタンド
カメラ三脚

授業

RJ・SP研究授業
(低、中、高)

RJ・SP合同授業

校内遠隔授業

リオタイム(総合
的な学習の時間)

プログラミング教育
(RJ・SP,SJ)

ゲストティーチャー
職業人講話

先輩との交流会

ブラジル3校
(RJ・SP・マナウ
ス)

研究協力4校
(RJ・SP・SJ・AC)

授業改善

アイスブレイク

目標、内容、流れ
ふりかえり

多様性を認め合う

自発的・効果的な
コミュニケーション

気づく、調べる、
話し合う、まとめる

協働する
発表・行動

記録、評価

行事

着任式、始業式
入学式、卒業式

始業式、終業式
修了式

子弟教育会
運営委員会

PTA代表委員会
個人懇談

リオデジャネイロ
日本語モデル校交流

リオデジャネイロ
連邦大学交流

研修

RJ・SP
2校合同研修会

AG5
4校合同研修会

校内研修

校内情報共有
(PMIQシート)

RJ・SP情報共有
(Googleドライブ)

プログラミング教育
(RJ・SP,RJ)

ICT機器の
配置と活用法

アプリの活用
(遠隔会議用、授業用)

アンケート
(児童生徒、教員)

5

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

ICT環境の整備

<課題>

- ・つながりにくい
- ・見えにくい
- ・聞こえにくい
- ・接続に手間取る
- ・協働して作業しにくい

機器・設備

インターネット
回線増設

240M+300M
(既存)+増設

校内LAN
(配線、機器)

カテゴリー5→6
AP2個→6個

タブレット・PC端末
(児童生徒・教員)

Apple Pencil
タブレットスタンド

WEBカメラ
マイク・スピーカー

カメラ三脚
電源コンセント

教室のコンセント
形状の変更

液晶テレビ
HDMケーブル

アプリの活用

遠隔会議アプリ

LINE, Skype,
google meet,
cisco webex,
zoom

提示アプリ

word
power point
カメラ、写真

共同編集アプリ

googleスライド
googleドキュメン
ト

プレゼン、動画
作成アプリ

keynote
iMovie

ファイル共有アプリ

googleドライブ

情報共有・接続

連絡

電話、メール
メッセージ
オンライン会議

情報共有

google共有フォル
ダ
PMIQシ
ート

授業計画、流れ

プレゼン、指導案
ワーキングシート

接続

遠隔授業用時間割表
(授業リンク付き)

機器配置、使用法

実験、研修、工夫

6

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

ICT環境の整備

<教科担任制>
教科ごとに先生が違う

| | | 令和3年度遠隔基本時間割(4月12日~) A週 リオデジャネイロ日本人学校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|---------------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 月 | | | | | 火 | | | | | 水 | | | | | 金 | | | | |
| 小1 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |
| 小2 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |
| 小3 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |
| 小4 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |
| 小5 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |
| 中1 | 読書 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 | 英語 | 算数 | 国語 | 音楽 |

セルに授業のリンク
クリックすれば授業につながる

7

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

ICT環境の整備

<児童用>
クリックで接続!

| | | しょうがく1ねん えんかくきほんじかんわり (4月12日~) A週 | | | | | しょうがく1ねん えんかくきほんじかんわり (4月19日~) B週 | | | | | | |
|---------------|----------------|-----------------------------------|------------|----------------|----------------|-------|-----------------------------------|----------------|----------------|------------|----------------|----------------|-------|
| | | げつ | か | すい | もく | きん | げつ | か | すい | もく | きん | | |
| 8:00 - 8:15 | あさのかい | あさのかい | | | | | 8:00 - 8:15 | あさのかい | あさのかい | | | | |
| 8:20 - 8:35 | あさのかつどう | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 8:20 - 8:35 | あさのかつどう | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 外国語 | どくしょ |
| 9:25 | 1じげんめ | こくご | がいこくご | さんすう | さんすう | こくご | 9:40 - 9:25 | 1じげんめ | こくご | がいこくご | さんすう | さんすう | こくご |
| 9:30 - 10:15 | 2じげんめ | こくご | おんがく | こくご | さんすう | こくご | 9:30 - 10:15 | 2じげんめ | こくご | おんがく | こくご | さんすう | こくご |
| 10:15 - 10:35 | なかやすみ | なかやすみ | | | | | 10:15 - 10:35 | なかやすみ | なかやすみ | | | | |
| 10:40 - 11:25 | 3じげんめ | せいりかつ | こくご | あみとがらこ | おんがく | せいりかつ | 10:40 - 11:25 | 3じげんめ | せいりかつ | こくご | あみとがらこ | おんがく | せいりかつ |
| 11:30 - 12:15 | 4じげんめ | たいりく | こくご | たいりく | せいりかつ | たいりく | 11:30 - 12:15 | 4じげんめ | たいりく | こくご | たいりく | せいりかつ | たいりく |
| 12:15 - 13:10 | ひるごはん ひるやすみ | ひるごはん ひるやすみ | おわりの かい | ひるごはん ひるやすみ | ひるごはん ひるやすみ | | 12:15 - 13:10 | ひるごはん ひるやすみ | ひるごはん ひるやすみ | おわりの かい | ひるごはん ひるやすみ | ひるごはん ひるやすみ | |
| 13:30 - 14:15 | 5じげんめ | さんすう | ずこ | | こくご | どうとく | 13:30 - 14:15 | 5じげんめ | さんすう | ずこ | | こくご | どうとく |
| 14:20 - 15:05 | 6じげんめ | さんすう | ずこ | | こくご | がつかつ | 14:20 - 15:05 | 6じげんめ | さんすう | ずこ | | こくご | がつかつ |
| 15:05 - 15:20 | おわりのかい | おわりのかい | | | おわりのかい | | 15:05 - 15:20 | おわりのかい | おわりのかい | | | おわりのかい | |

8

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業

RJ・SP研究授業
(低、中、高)

<1年次(2019年度)>

- ・小学5年 道徳教育 「同じ空の下で」

<2年次(2020年度)>

- ・11月 RJ・SP小学1、2年国語「しらせたいな・見せたいな」
- ・2月 RJ小学3、4、6年、SP小学5年 総合的な学習の時間
「つながろう、サン・リオ発見プロジェクト」
- ・2月 RJ・SP中学1年 総合的な学習の時間「新型コロナウイルス調べ発表会」

<3年次(2021年度)>

- ・7月 RJ・SP小学3年 総合的な学習の時間「ほかの町に住む友だち」
- ・9月 RJ中学1年、SP中学1、2年 総合的な学習の時間
「ブラジルと日本の架け橋になろう！」
- ・10月 RJ小学4・5年、SP小学5年 総合的な活動の時間
「ブラジルを好きになる、もっと好きになる
～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」

9

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業(研究授業)

RJ小学4・5年、SP小学5年 総合的な活動の時間
「ブラジルを好きになる、もっと好きになる～ブラジルのよさをみんなに伝えよう～」

・単元構成(20時間扱い・本時11/20) 児童:RJ 4年1名、5年4名 SP 5年10名

- 1 サンバについて知ろう(1時間目)
 - ・ブラジル出身の先生からサンバの歴史などの説明を聞いて学び、音楽に触れてみる。
- 2 サンバについて調べよう(2～10時間目)
 - ・【踊り】【衣装】【楽器】のグループに分かれ、調べ、まとめ、中間発表をする。
- 3 調べたことを発表しよう(11～15時間目)
 - ・中間発表会を振り返り、改善する。(本時:11時間目)
 - ・発表会を行い、聞き合う。
- 4 学んだことをまとめ、伝えよう(16～20時間目)
 - ・サンバについて学んだことを個人でまとめ、発表する。

10

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

<本時の目標>
中間発表を振り返り、より分かりやすく伝えるために工夫をしよう

- 発表内容をより分かりやすいものにすることができる。

【思考・判断・表現】

- 自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

1 1

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

ワークシート (表上半分)

2021年10月6日(水)

SPRJ 合同授業(高学年)

総合的な学習の時間『ブラジルを好きになる、もっと好きになる』

_____日本人学校 小学部__年 名前_____

今日のめあて

- ・グループの話し合い活動に参加しよう。(自分の意見を伝えたり、他の人の意見を受け入れよう)
- ・中間発表会での振り返りをもとに、よりよい発表をできるようにしよう。(アドバイスを参考にしよう)

1 2

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

ワークシート (表下半分)

話し合い活動 (10分)

この時間にやること

グループ活動(25分)

今後の予定

13日(水)13:40発表会へ向け練習 21日(木)13:40発表会 27日(水)まとめ、振り返り

13

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

ワークシート (裏)

今日のふりかえり(5分)

| S | A | B |
|--|--|--------------|
| 発表内容が改善され、分かりやすく、伝わりやすい内容になった。 | 発表内容が改善され、分かりやすくなった。 | 発表内容が改善された。 |
| 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、相手の意見を受け入れることができた。 | 話し合い活動に参加し、自分の意見を言ったり、もしくは相手の意見を受け入れることができた。 | 話し合い活動に参加した。 |

14

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

中間発表を終えて

踊り

【よかったところ】

- ・サンバのステップをちゃんと教えてくれた。
- ・実際にやる場所。
- ・サンバのステップの教え方がよいと思いました。
- ・スライドができていて良いと思いました。
- ・ステップは足を見せてよい。
- ・言葉がはっきりしていた。

【わかりづらかったところ】

- ・ステップをさらにわかりやすく。
→ステップがはっきりする工夫をしたらいい。
- ・少し言葉が少なかった。
- ・声がそんなに聞こえない。
- ・何を言っているのか分からない。
→ゆっくり言う。
- ・スライドの人と話す人で分かれている。
→どっちかに合わせる。
- ・RJを相手にするのにSPだけでいっぱい話しているのがわかりづらい。
→ちゃんと原こうを作ってくわしく調べた方が、もっと上手になる。
- ・画面共有のスライドを映すのに時間がかかった。
→事前に準備しておく。
- ・話すスピードが早かった。
→ゆっくり話すよい。
- ・原稿を見ながら発表した。
- ・時間が余った。
→6分でまとまるように練習する

15

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

中間発表を終えて

衣装

【よかったところ】

- ・本当の物(実物)を見せていた。
- ・スライドをつかっていた。
- ・作り方を細かく言って、ぼうしの作り方の実物を見せてた。
- ・実物で紹介していて良いと思いました。
- ・RJは、絵が入っていて良いと思った。
- ・ゆっくり大きな声でしゃべっていたのでよい。
- ・理由をつけてしようかいしているところがよい。
- ・グループの中にしかいがいてよい。
- ・自分の意見を言っているところがよい。
- ・聞いていて面白い。

【わかりづらかったところ】

- ・話が聞き取りづらい。
→ハキハキ言ってほしい。
- ・もごもごしていた。
→声を大きくしてほしい。
- ・ぼそぼそ言うと伝わらない。
→大きい口を開けて。
- ・カチューシャの作り方がわからない。知りたい。
→作り方を説明して時間を増やせると思う。
- ・少し言葉が少なかった。
- ・声がそんなに聞こえない。
→声を大きく。
- ・SPは、声が聞こえづらくてわかりづらい。
- ・RJは、実物などを入れなく少し早口だった。
→たまたま動画をのせたり写真をのせても良いと思いました。
- ・画面共有のスライドを映すのに時間がかかった。
→事前に準備しておく。

16

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

中間発表を終えて

音楽

【よかったところ】

- ・スライド以外のものをつかっていた。
- ・話をしている人がわかるようにしている。
- ・楽器の特徴や作り方を丁寧に説明していた。
- ・リズムを実際やっていた。
- ・順番が決まっていた。
- ・昔と今の違いがわかった。
- ・アクセントがあることがわかった。
- ・司会がいる。

【わかりづらかったところ】

- ・聞こえづらい。
→もう少しはきはきしゃべる。
- ・声が小さい。
- ・すらすら読めなかった。
- ・発表の順番などが準備不足だった。
- ・何を言っているのかわからない。
→近くにくる (マイク)
- ・画面がゆれた。
→人が映る。
- ・実物を見せたほうが良い。
→準備する。楽器を使ってほしい。

17

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

授業 (研究授業)

子どもたちが資料を参考に自分たちでより良い発表になるように話し合いました。教師は話し合いを聞きながら、適切なアドバイスをしました。



授業の様子：楽器グループの話し合い



授業の様子：衣装グループの話し合い



授業の様子：踊りグループ 教師のアドバイス

18

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

4月12日(月)「令和3年度 着任式」

3名の新派遣教員が
オンラインで参加



本日より、新年度がスタートしました。3名の教員がリオデジャネイロに到着し、新型コロナウイルス感染症対策の自粛期間のため、オンラインの着任式を行いました。



着任式は、在校生と保護者が参加し、体育館で行いました。児童生徒代表が歓迎の挨拶をしました。

19

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

4月12日(月)「令和3年度 転入生歓迎会」

2名の転入生が
オンラインで参加



小学3年生1名、小学5年生1名が日本の学校から転入しました。新型コロナウイルス感染症対策の自粛期間のため、オンラインでの参加でした。



児童代表があいさつをし、日学ファミリーが増えました。

20

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

4月12日(月)「令和3年度 始業式」

新派遣教員と転入生も
オンラインで参加



校長先生の話



児童代表が、今年頑張りたいことを発表し、新しい年度が始まりました。

2 1

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

4月12日(月)「令和3年度 入学式」

入学式の記念写真も
オンラインで参加



本年度は、小学1年生2名、中学1年生1名が入学しました。小学1年生1名は、オンラインで参加しました。



令和3年度は、児童生徒13名でスタートします。

2 2

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

5月14日(金)「リオ日学の先輩の話を聞こう」

日本とリオから
先輩たちが
オンライン参加



コスメペーリョ、サンタテレザ、両方の時代を知っている10名の日学OB、OGさんと交流しました。



当時の思い出やお仕事の話など、2時間があっという間に過ぎるお話でした。くわしくは、「50周年のページ」をごらん下さい。

23

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

5月15日(土)「リオデジャネイロ日本語モデル校との交流会」

日本語を学ぶブラジルの方たちと
4つのグループで
オンライン交流会



リオデジャネイロ日本語モデル校の生徒や先生たちも参加して、60人以上でオンライン交流会をしました。両校で自己紹介をした後、クイズやしりとり、早口言葉などで交流を深めました。



日本語とポルトガル語で司会やあいさつをしました。たくさんの方に子どもたちのがんばりを見てもらいました。これからも、交流を続けていきたいです。

24

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

行事

6月29日(火)「サンパウロ日本人学校との合同授業(中1体育)」

7月1日(木)「7月 全校朝会」



東京2020オリンピック・パラリンピックをより興味をもって観戦するために、サンパウロ日本人学校と合同で、「体育理論」を行いました。



日本から2名の児童がオンラインで参加する準備。

どこからでも
いつでも
オンラインで

3 研究実践<遠隔教育>

(リオデジャネイロ日本人学校)

研修

校内情報共有
(PMIQシート)

PMIQシート

(「P:良い、わかったこと」「M:問題」「I:面白い・工夫」「Q:質問」をGoogleスプレッドシートで校内教員が共有)

【こんな状況だった】<遠隔教育の経験、自信がない>
教師は、経験したことがない、やり方がわからないことに取り組むことに困難や不安を感じ、動けなくなることがある。

【だからこうした】<経験から得た情報、知っている情報の共有>
PMIQシートで、到達、課題、関心、疑問の観点から経験を振り返り、教訓を積み重ねることにした。

【その結果こうなった】<不安の軽減、経験を重ね、自信に！>
経験したことがない、やり方がわからないことに対する不安が軽減され、一歩ずつ行動できるようになった。

教員もオンラインで情報共有をしてつながり、課題解決を図る

小さな積み重ねを一歩ずつ



「知恵の蔵」28枚のカード
(パターンランゲージ)

研修

PMIQシートの例

RJ遠隔教育PMIQシート (20200601-) ☆ □ ○

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集: 数校前

100% 123 デフォルト 10 B I S A

| W2 | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V |
|----|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|--|---|
| 1 | リオデジャネイロ日本人学校【遠隔授業記録】57 | | | | | | | | | | 6/28 (月) ~7/2 (金) | | | | | | | | | | | |
| 2 | 研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」—遠隔教育によるプログラム開発— | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | P (良い・分かったこと) | | | | | M (課題) | | | | | I (面白い・工夫) | | | | | Q (問い) | | | | | 連絡板 | |
| 4 | ・zoomで共有画面を利用するための方法には次のようなやり方がある。 ①会議を開始したホストが「他の共有を許可」する。 ②会議を開始したホストが、共有画面を使う人を「共同ホスト」に設定する。(会議を開始するホストが有料ライセンスをもっていることが必要) ・zoomで画面で1台だけオーディオ接続しているときは、スピーカービューにしても発言者の顔に自動的に切り替わらない。→ホストが共同ホストが参加者画面でその人を「全員にスポットライト」指定する必要がある。また、次の人に切り替えるときは、「スポットライトを置き換える」を使うとスムーズにできる。 ・高学年部会の顔合わせ会では、SPとRJの子どもたちがそれぞれの特徴を生かして楽しく交流できたことは良かったと思う。SPの画面の名前表示の部分を使ってメッセージを作ったことなど、オンラインだからこそできる仕掛けを工夫していたと思う。 | | | | | ・学校のインターネットが遅くなることがあるため、どうしてか調べたためにClaroの人に来てもらった。→事務室で事務員、事務長、情報担当で対応し、インターネットを速くするために2つの方法があることがわかった。 ①インターネット回線の最初の入り口である機器(ルーター)が古く性能が低いので、これを性能の高い機器に交換することで、回線速度の改善が見込める。 ②インターネットの使用量が、2月25GB、3月25GB、4月40GB、5月31GB、6月36GBであった。本校の現在のClaroとの契約は、速度が240M (Byte/s 最大値)、1ヶ月のデータ使用量150GBを超えると回線速度が遅くなるようになっている。Claroの人のアドバイスによると、事務室の契約はそのままにしておき、それとは別に1ヶ月のデータ使用量500GB以上の契約に変えた方が良かった。私は、事務室の使用量や必要な回線速度はそれほど多くないので、両方同じ回線で、回線速度が速く1ヶ月のデータ使用量が多い契約に変えた方が良いと思った。 他のインターネット速度改善の方法としては、次の2つが考えられる。 | | | | | ・zoomでハウリングしないようにするには、各部1台だけオーディオ接続をして、他はしないようにする。そのオーディオ接続する機器には、ヤマハのコミュニケーションマイク・スピーカーシステムをUSBで接続するとノイズも減るし、相手の声が全体に聞こえやすくなる。 ・コミュニケーションマイク・スピーカーシステムを接続しても、zoom画面のマイクアイコン横の矢印 (v) をクリックしてヤマハのコミュニケーションマイク・スピーカーシステムに切り替えていないと、パソコン本体のマイクから音が出てしまうので、確認が必要である。 | | | | | zoomの機能を使って遊べるゲームはないのでしょうか。NHK番組で紹介されていたオンラインのゆるスポーツとして、顔の表情を変える競争や、眉毛を動かす競争などを行ってみたいです。専用のアプリが必要なかもしれませんが、参加者の画面にカウント表示が出ていました。楽しくできることがあるのではないかと思います。 →ゆるスポーツ (https://yurusports.com/sports/aryurusports) です。面白そうなのでやってみました。 ①Snap Cameraをインストールする。(設定手順書のリンクがあります。) ②zoomでSnap Cameraを使える設定をする。(zoomのビデオ設定からできます。) ③「Yuru Sports Snap Camera」からレンズのURLをコピーする。 ④Snap Cameraを起動して、コピーしたレンズのURLで検索し、やりたいYuru Sportsのレンズを選ぶ。 ⑤zoomを起動する。 ⑥フェイスビルディングをやる場合は、Snap Cameraの画面をクリックすると、カウンターがスタートして、表情を変えるとカウントされます。(やってみると52点でした)。 ⑦画面が反転しているときは、zoomのビデオ設定でミラーリングをオフにします。 | | | | | ・6月28日 (月) 15:30 SPRJ低学年部会 () ・6月28日 (月) 小学1年、日本に一時帰国した児童1名とハイブリッド授業 (対面授業と平行したオンライン授業) 開始 (準備:) ・6月28日 (月) 小学5年、一時帰国中の児童1名とハイブリッド授業継続中 (準備: 藤澤) ・6月29日 (火) 8:20-9:00 SPRJ合同授業 (RJ中学1年1名とSP中学1、2年13名、体育理論「オリンピック」) ・7月1日 (木) 10:40-11:25 総合 高学年顔合わせ ()、RJ小学5年3名) ・7月1日 (木) 15:30-低学年部会 接続テスト (打ち合わせ) () ・7月2日 (金) 15:00-17:00 Claroの人に来て、WiFi PLANの速度改善について、診断・相談。(担当:) ・7月2日 (金) ホームページ学校日記 (2016年度以前) を削除 () | |

27

4 成果

(リオデジャネイロ日本人学校)

多様な意見を聞き、多様性を受け入れる

相手の立場に立ったコミュニケーション力

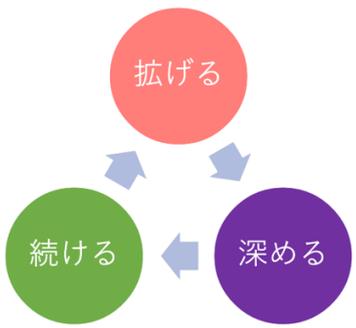
協働する難しさと感じる

遠隔教育、ICT活用、相手意識の日常化

報告書 (2019~2021)

AG5 Webページ

「知恵の蔵」
(パターンランゲージ)



28

4 成果<遠隔教育> (リオデジャネイロ日本人学校)

共同編集アプリの活用

(Googleスライド、Googleドキュメントなど)

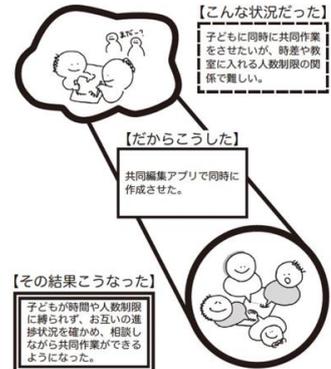
【こんな状況だった】<共同作業をどのようにさせたらよいか?> 子どもに同時に共同作業をさせたいが、時差や教室に入れる人数制限の関係で難しい。(合同授業は作業よりも話し合いをさせたい)

【だからこうした】<無料で気軽に使える共同編集アプリ活用> 共同編集アプリで同時に作成させた。(同じファイルで同時に別のページを編集したり、同じページに同時に書き込んだり、別の時間に他のページを見ながら作業を進められるアプリ)

【その結果こうなった】<不安の軽減、経験を重ね、自信に!> 子どもが時間や人数制限に縛られず、お互いの進捗状況を確認、相談しながら共同作業ができるようになった。

遠隔授業でなくても、日常的に使いこなせるようになってきた

授業の相互参照から
自分の授業づくりへ



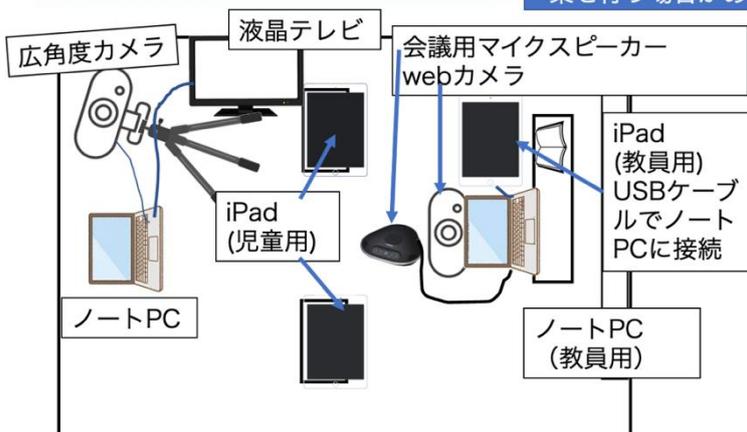
「知恵の蔵」28枚のカード
(パターンランゲージ)

29

4 成果<遠隔教育> (リオデジャネイロ日本人学校)

いろいろな形態での遠隔教育
(ICT機器の配置や使い方の工夫)

このようなICT機器を使い、3部屋以上で遠隔授業を行う場合がある。



30

5 展望＜遠隔教育＞ (リオデジャネイロ日本人学校)

体験・経験の中で、
互いに話し合い、情報を共有し、
自分でつくっていく！

もっと

他の日本人学校
日本の学校
地域の学校、団体、関係機関
ゲストティーチャー

広げる

サンパウロ日本人学校
マナウス日本人学校
サンホセ日本人学校
アグアスカリエンテス日本人学校
リオデジャネイロ日本語モデル校
リオデジャネイロ連邦大学

自分の興味あること
学習に関すること
地域に関すること
ADG'sに関すること

深める

気軽に

続ける

自分で

高度グローバル人材育成

F 自校でのオンライン授業や行事についての情報交換、話し合い、研修等

①遠隔授業時間割表

本校は、教科担任制で、zoomの切り替えが頻繁に必要である。そこで、遠隔授業に接続しやすくするために、エクセルの各セルにzoom授業へのリンクを貼り付け、クリックするだけで接続できるようにした。

(遠隔時間割表 全体 A週 4月12日～)

| | | 令和3年度遠隔基本時間割 (4月12日～) A週 リオデジャネイロ日本人学校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|----|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 月 | | | | | | 火 | | | | | | 水 | | | | | | 木 | | | | | | 金 | | | | | |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| <p><教科担任制> 教科ごとに先生が違う</p> | 小1 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |
| | 小2 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |
| | 小3 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |
| | 小4 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |
| | 小5 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |
| | 中1 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 | 読書 |

セルに授業のリンク
クリックすれば授業につながる

(遠隔時間割表 小学1年 A週・B週 4月12日～)

| | | しょうがく1ねん えんかくきほんじかんわり (4月12日～) A週 | | | | | | | | | | しょうがく1ねん えんかくきほんじかんわり (4月19日～) B週 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---------------|-----------------------------------|-------|-----|--------|------|---------------|---------------|---------|------|-----|-----------------------------------|---------------|-------|---------------|-------|------|-------|---------------|--------|--------|---------------|----------------|----------------|------------|----------------|------|-----|
| | | げつ | か | すい | もく | きん | げつ | か | すい | もく | きん | げつ | か | すい | もく | きん | げつ | か | すい | もく | きん | | | | | | | |
| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | | | | | | | |
| <p><児童用> クリックで接続!</p> | 8:00 - 8:15 | あさのかい | あさのかい | | | | | | | | | | 8:00 - 8:15 | あさのかい | あさのかい | | | | | | | | | | | | | |
| | 8:20 - 8:35 | あさのかつどう | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 8:20 - 8:35 | あさのかつどう | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 外国語 | どくしょ | 8:40 - 9:25 | 1じげんめ | こくご | がいこくご | さんすう | さんすう | こくご | 9:30 - 10:15 | 2じげんめ | こくご | おんがく | こくご | さんすう | こくご |
| | 10:15 - 10:35 | なかやすみ | なかやすみ | | | | | | | | | | 10:15 - 10:35 | なかやすみ | なかやすみ | | | | | | | | | | | | | |
| | 10:40 - 11:25 | 3じげんめ | せいかつ | こくご | ポルトガルこ | おんがく | せいかつ | 10:40 - 11:25 | 3じげんめ | せいかつ | こくご | ポルトガルこ | おんがく | せいかつ | 11:30 - 12:15 | 4じげんめ | たいいこ | こくご | たいいこ | せいかつ | たいいこ | 12:15 - 13:10 | ひるごはん ひるやすみ | ひるごはん ひるやすみ | おわりの かい | ひるごはん ひるやすみ | | |
| | 13:30 - 14:15 | 5じげんめ | さんすう | ずこ | こくご | どうとく | 13:30 - 14:15 | 5じげんめ | さんすう | ずこ | こくご | どうとく | 14:20 - 15:05 | 6じげんめ | さんすう | ずこ | こくご | がっかつ | 15:05 - 15:20 | おわりのかい | おわりのかい | おわりのかい | | | | | | |

③オンライン授業のきまり「リオ日学 授業のルール8か条」(遠隔授業編)

遠隔授業では、通常の対面授業とは違う授業のルールが必要である。学校では当たり前のことが、家庭でオンラインで授業を受けるときには、当たり前でなくなる場合があります。また、保護者の方などの協力も欠かせない。

そこで、学校内外とICTを活用して遠隔授業をするときの決まりを、「みんなで守ろう“リオ日学 授業のルール8か条”(遠隔授業編)としてまとめ、児童生徒全員で内容を確認し、指導するとともに、家庭でも協力していただけるようにした。オンライン授業では特に、準備をしてスムーズに接続すること、正しい姿勢で授業を受けること、しっかり聞く話すこと、積極的に授業に参加すること、大切なことはノートに書くこと、授業に集中することが重要である。

みんなで守ろう“リオ日学 授業のルール8か条”(遠隔授業編)

<このルールは授業で力をつけるために、自分を判断する「ものさし」です>

- 1 前の授業が終わったら次の授業の準備をしておきましょう。授業1分前には机かテーブルの前に座って、次の授業のURLをクリックしましょう
- 2 授業中は、正しい姿勢で取り組みましょう
- 3 授業の始めと終わりにはきちんと「あいさつ」をしましょう
- 4 先生や友達が話をしているときは、ミュートにして聞きましょう
- 5 発表する時は手を挙げて、指名されたらミュートを解除して返事をしましょう
※みんなに聞こえるように発表しましょう
- 6 積極的に発言し、授業をみんなで作りましょう
- 7 大切なことはノートに書きましょう
- 8 授業中は、ものを食べたり、立ち歩いたりしません

この授業のルールをみんなで確認して守ることで、できるだけ授業の最初から最後まできちんとオンライン授業に接続して、画面の前で集中して取り組む姿勢が見られた。

＜遠隔教育環境整備＞

G インターネット回線増設と校内 LAN 整備

2019 年度に遠隔授業を始めた当初は、インターネット回線がとても不安定で、各教室での利用が難しいことも多かった。2019 年度、2020 年度にも、WiFi の接続ポイントを増やしたり、使い方を工夫したりしてきたが、やはりインターネット接続が不安定であった。

そこで、インターネット接続がうまくいくように、専門業者とも相談し、インターネット接続で問題となっているボトルネックを解消するように、遠隔教育環境整備を図った。

① インターネット回線の増設

いろいろな対策を検討する中で、一番の問題は、情報インフラの基幹であるインターネット回線（インターネット接続速度と月間許容量）であった。

回線増設前に、以前から契約していた 240Mbps（上りのベストエフォート）の契約回線の方は、遠隔授業を同時に複数行なうことが多く、事務用回線とも共用していたために、情報のトラフィックがとても多くなり負荷が高くなっていた。そのため、遠隔授業や研修が最初からつながらなかつたり、途中で切れたり、映像や音声途切れたりすることも多かった。また、1ヶ月間の回線使用量が制限を超えると急に遅くなり、実用的ではなかった。

このため、職員室に別のインターネット回線を増設することにした。これは、300Mbps（上りのベストエフォート）の契約で、1ヶ月間の使用制限にも余裕があった。こちらの回線で、職員室での教員の作業や各普通教室での遠隔授業や共有サーバーへの接続などのインターネット接続をすることにした。

既存の 240Mbps の回線もそのまま契約を続け、こちらは回線は、事務室と体育館、音楽室、校長室、理科・技術室のインターネット接続をまかなうことにした。

② 校内 LAN（ローカル・エリア・ネットワーク）の整備

①のインターネット回線の増設に伴い、校内 LAN の配線ケーブルをカテゴリ 5 からカテゴリ 6 に変えた。

（カテゴリ 5 は、通信速度 100Mbps まで、伝送帯域（一度に伝達できる情報量）が 100MHz である。カテゴリ 6 は、通信速度 1Gbps（100Mbps の約 1000 倍）まで、伝送帯域が 250MHz（カテゴリ 5 の約 2.5 倍）である。）

また、ルーターと WiFi アクセスポイントの数を増やし、高性能なものに変えた。これにより、職員室、各普通教室、事務室、体育館、校長室、音楽室、理科・技術室などで安定して高速なインターネット接続が可能となった。

そして、ルーターと WiFi アクセスポイントのネットワーク設定で、ネットワーク名とパスワードを学校内で全て同じにすることで、シームレスな接続が可能となった。

③ 接続端末の高性能化

①のインターネット回線増設や②の校内 LAN の整備とともに、安定したインターネット接続のためには、接続端末の高性能化が必要であった。

2019、2020 年度には、学校の古いノートパソコンや教師個人のノートパソコンを遠隔教育に使用することが多かった。インターネット接続の状況は、接続端末の性能にも大きく影響を受けるため、やはり不安定なことがあった。児童生徒は新しい iPad やノートパソコンで、教員は学校で購入した新しいノートパソコンで、遠隔教育を実施することで、より快適にインターネット接続ができるようになった。

このように、①インターネット回線の増設、②校内 LAN の整備、③接続端末の高性能化により、ボトルネックがなくなり、快適にインターネット接続ができ、遠隔教育が効率的に行えるようになった。

H 共有フォルダの利用

①サンパウロ日本人学校等との共有フォルダ

サンパウロ日本人学校と連携協力して研究を進めるにあたり、両校でファイルの読み書きが共有できるようにする必要があった。

そこで、本校で 2018 年度の途中から使っている「Google Workspace for Education fundamental (旧 G Suite for Education)」の共有サーバーに、「高度グローバル人材育成拠点事業」というフォルダを作り、リオデジャネイロ日本人学校とサンパウロ日本人学校の教員全員がファイルを読み書きできるように共有設定をした。

低学年部会、高学年部会、中学年部会、合同研修会などのフォルダをその中に作り、各部会の研究授業や合同授業等の計画や実践に関わる資料や授業記録ビデオなどのファイルを共有した。

このことにより、メールで送るには大きいファイルはリンクを送ったり、メール添付では探しにくいファイルも整理でき、アクセスしやすしやすかった。

②児童生徒共有フォルダ

遠隔授業では、共同作業がしやすい Google ドキュメント、Google スライドなどを多く用いた。本校児童生徒は、児童生徒に共通の google アカウントでログインすることにより、どの端末でもこれらの児童生徒共有フォルダにアクセスすることができ、一つのファイルを同時に編集することも可能であった。

サンパウロ日本人学校の児童生徒と共同編集を行いたいときには、ファイルやフォルダに共有設定をして使用した。

また、各端末に保管したファイルを児童生徒共有フォルダにアップロードすることで、教員も管理しやすく、他の児童生徒も扱えるようになった。iPad で作成したものをノートパソコンで編集するなどの作業もやりやすかった。メールではやり取りできない大きなビデオファイルなども、児童生徒共有フォルダを使い、編集することができた。

教員が児童生徒に扱わせたいファイルを児童生徒共有フォルダに入れることで、どの児童生徒もすぐにアクセスすることができた。

I 情報機器の整備と活用

本校では、ネットワーク関連機器だけでなく、ICT 機器をどう活用して遠隔教育をするかについて、いろいろな試行錯誤をして改善を図った。

今年度は、ノート PC、iPad、iPad スタンド、広角度 web カメラ、高解像度 web カメラ、三脚、会議用マイク・スピーカーシステム、液晶テレビ等を特に活用した。

また、インターネット接続環境の改善を図ったため、1つの教室で複数台の端末を遠隔授業に接続して使うことも多かった。

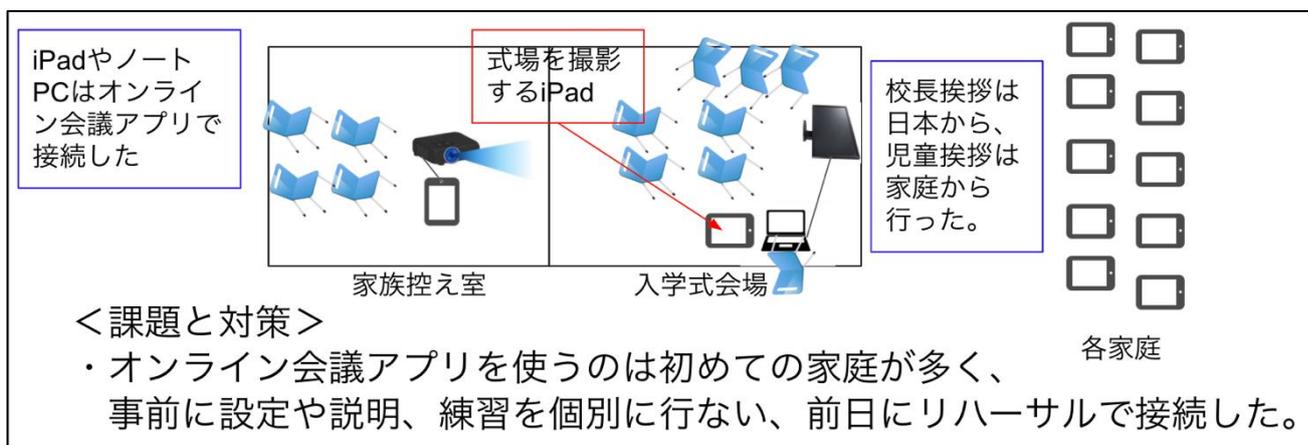
昨年度の報告書に載せた内容をどう改善すれば、もっと遠隔教育がしやすくなるかについて考え、改善・実践した。(①～⑧) また、最後に最近の授業で使った教室レイアウト例を⑨に、リアルタイムではない遠隔合同授業について⑩に挙げる。

①入学式

(2020 年度)

新型コロナ対策のため、新入生と保護者のみ来校して、リオデジャネイロにいる教員が式の運営をした。入学式は、インターネットがつながりやすい職員室の下の普通教室で行った。新派遣教員(校長と教諭1名)は日本からオンラインでの参加、在校生と保護者もブラジルからオンラインでの参加であった。

<配置図>



(2021 年度)

着任式、始業式、転入生歓迎会、入学式を、2020 年度にインターネット環境を整備した体育館で行った。リオデジャネイロにいる在校生と新入生、その保護者、教職員は来校して式に参加した。新派遣教員(3名)とその家族(新入生、転入生と保護者)は、オンラインで参加した。

新派遣教員(3名)と新入生(1名)はノートパソコンに接続した液晶プロジェクタ(2台)にそれぞれ映した。また、会場全体を写すノートパソコンを別に設置した。

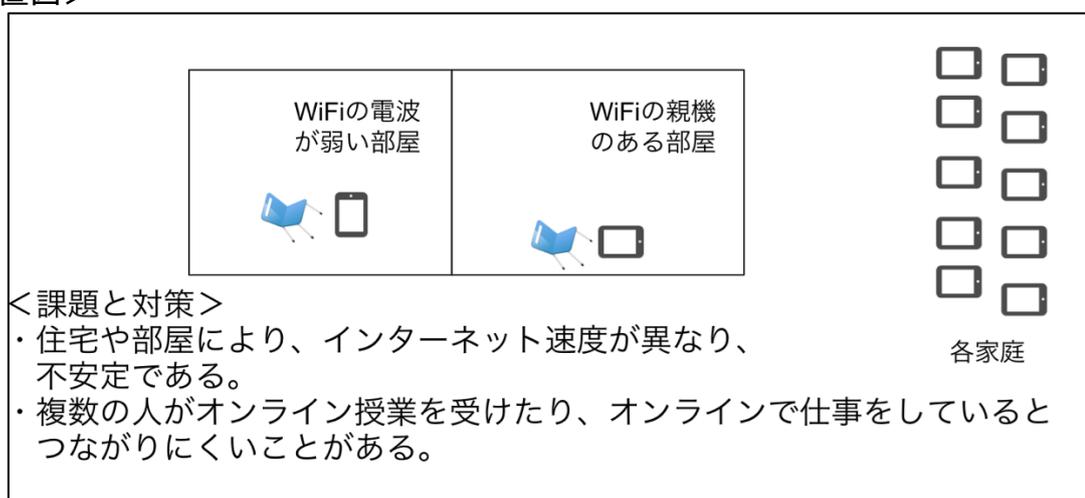
<課題と対策>

- ・ノートパソコンのカメラで会場を写すと、低い位置になったり、角度を変えづらく、写せる角度が狭い。→三脚に取り付けた web カメラで写すと、高い位置から広角度で撮影できる。(入学式時には web カメラがなかったが、後日購入し、他の行事等で使用すると、とても便利であった。)

- ・ 式典等で話している人の顔が見えにくい。
→会場全体を写す web カメラに接続したノートパソコン以外に、話す人の前にノートパソコンを置き、人の顔が正面に大きく写る位置に角度などを調節する。それにマイク・スピーカーシステムを接続しておく、話す人の顔がよく見え、声もよく聞こえる。複数台のノートパソコンと web カメラ、マイク・スピーカーシステム、液晶テレビの配置を工夫することが必要である。
- ・ 記念写真にオンラインで参加している人も入れたい。
→液晶テレビを複数台写真を撮る位置にセットすることで、その場にいる人と一緒に撮影できた。

②オンライン授業（全員が1人1台の端末で各家庭から接続）
(2020年度)

<配置図>



- ◇通信が切れた場合は、電話や SNS で保護者と連絡を取り合い、様子を聞いた。
- ◇動画など回線に負荷のかかるコンテンツは授業後に宿題などで各自で見えるようにした。
- ◇ヘッドフォンやマイクを使用して、他の人の声などがじゃまにならないようにした。

(2021年度)

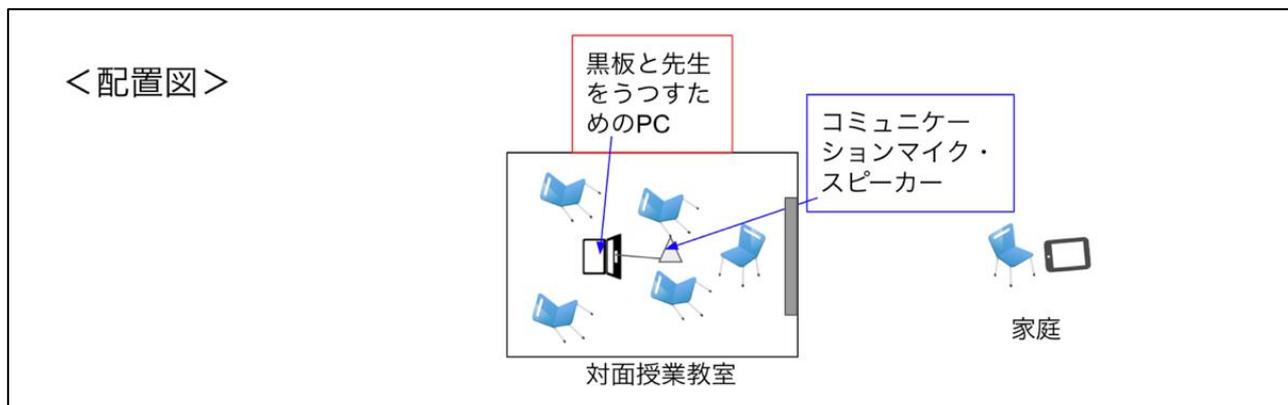
<課題と対策>

- ・ 2020年度と同じ課題については、同様の対策をとり、保護者にも協力をお願いした。
 - ・ 各家庭で接続する端末の種類が違くと、操作のやり方が違うので指導しづらい。
 - ・ 各家庭で遠隔授業に接続できなかつたり、接続が切れてしまつたり、映像が途切れてしまつたりする。それが、家庭のインターネット接続回線の問題か、端末の問題か分かりにくい。
 - ・ 授業で使用するアプリやファイルが入っていなかつたり、共有フォルダにアクセスできなかつたりする。
- 学校で普段使用している個人に割り当てられた iPad を貸し出す。これで、上記の問題のほとんどが解決した。貸し出す際に、丁寧に扱うことはもちろん、学校の学習のためにだけ使うことなどを保護者や児童生徒に確認した。

③オンライン授業（対面授業と1家庭を接続）

児童生徒が、一時帰国や自粛期間で自宅にいる場合など

（2020年度）



<課題と対策>

- ・教室にいる児童生徒の声が家庭にいる児童生徒に届きにくい。
 - ・教室にいる児童生徒が個別に端末を持って、遠隔授業に参加すると、インターネット接続が切れたり、ハウリングが起こる。
- コミュニケーションマイク・スピーカーを接続すると、みんなの声が入りやすく、家庭から接続している児童の声が聞こえやすかった。

（2021年度）

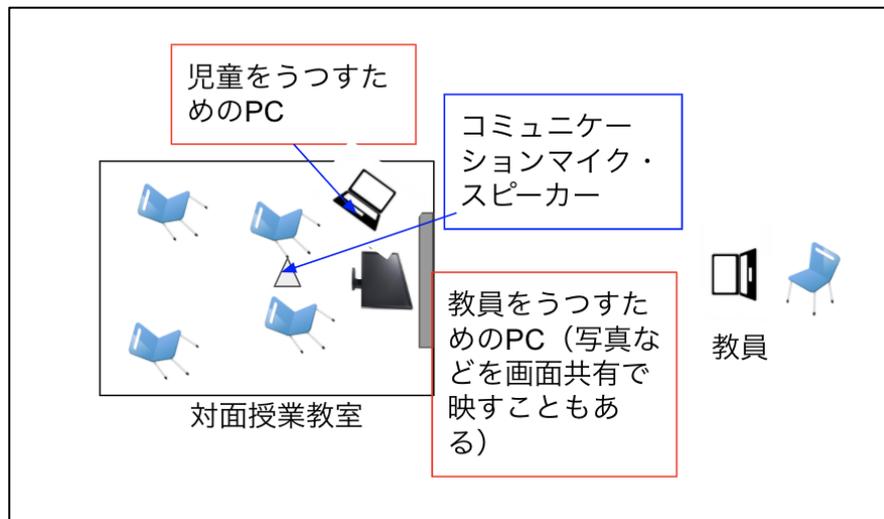
- ・2020年度と同様の課題について
- インターネット接続環境が改善されたため、教室にいる児童が個別の端末で遠隔授業に参加しても、接続が切れることはなくなった。ハウリングを起こさないようにするには、教室にいる児童生徒は遠隔授業に参加する時に「オーディオ接続」しないで、マイク・スピーカーシステムにつながった端末（教員用ノートパソコン等）のみ「オーディオ接続」するとよい。ただし、マイク・スピーカーシステムにつながったパソコンの遠隔会議アプリのマイクがマイク・スピーカーシステムに切り替わっているかの確認が必要である。USB接続だけでは内蔵マイクが作動している場合もある。
- ・家庭にいる児童には、先生と黒板が映っている画面が届いているが、他の児童生徒の様子は分かりにくい。
- 1人ずつの顔がはっきり分かるには、教室にいる児童生徒が個別にiPadで接続することが必要である。また、教室全体の様子が家庭にいる児童生徒に分かるようにするには、三脚に固定したwebカメラ（できれば広角度のもの）をパソコンにUSB接続して、教室の様子を斜め後ろまたは、斜め前から写すことが有効である。

④オンライン授業（教室にいる児童と教員を接続）

教員が、一時帰国で日本にいたり、自粛期間で自宅にいる場合など

(2020 年度)

<配置図>



<課題と対策>

- ・児童全員の様子が見えにくい。
→教室のPCの方向と角度の調節と、児童の席の配置を工夫する。
先生に見せるときは、PCの前に出てくる。
- ・児童の声が聞こえにくい。
→コミュニケーションマイク・スピーカーを接続すると児童の声が聞こえやすくなった。
- ・児童の作業の様子が把握できない。
→教室の児童が各自でiPadをもち、zoomに接続する。オーディオは使用しない。

(2021 年度)

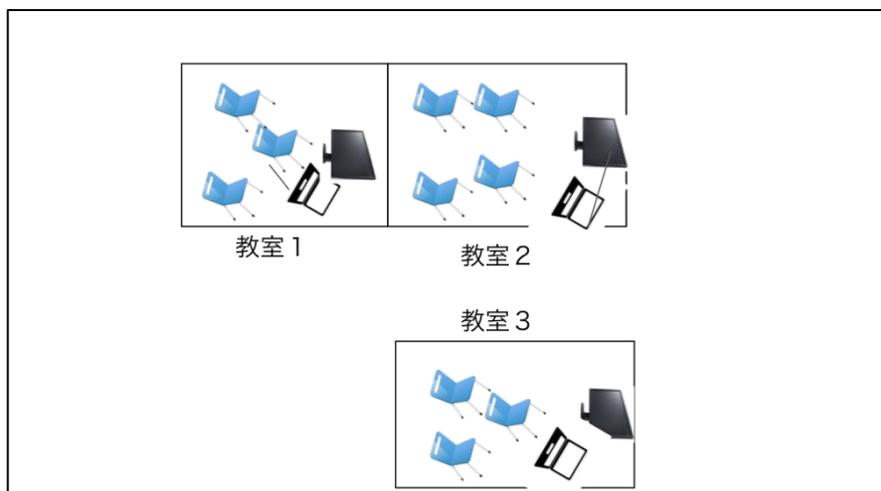
<課題と対策>

- ・2020年度と同様の課題があった。
→児童全員の様子を写すには、ノートパソコンのカメラではなく、広角度のwebカメラを三脚に取り付け、ノートパソコンにつなぐことが有効である。高い位置から、広範囲を写すことで、教室の児童の様子がより分かりやすかった。
- 児童のiPadはオーディオ接続せず、教員用PCにマイク・スピーカーシステムをつなぎオーディオ接続することでハウリングが起きない。対面授業の児童の声が聞こえにくい場合は、マイク・スピーカーシステムに近づいて発表するようにした。
- 児童各自がiPadを持つと、教師からの資料提示（画面共有）が見やすい。また、児童がGoogleドキュメントやGoogleスライドなどの作業を共有できるアプリやホワイトボード機能やチャットを使うことで、教員とのコミュニケーションがしやすくなった。

⑤オンライン授業（3つ以上の教室を接続）遠隔合同授業でのグループワークなど

(2020年度)

<配置図>



<課題と対策>

- ・教室や廊下に声が響き、ハウリングしやすい。（新型コロナ対策のため、ドアは開けている。）
- できるだけ離れた教室を使用する。
- マイクに近づき、少し小さめの声で話す。
- オーディオは使用せず、聞こえる程度の声で話す。

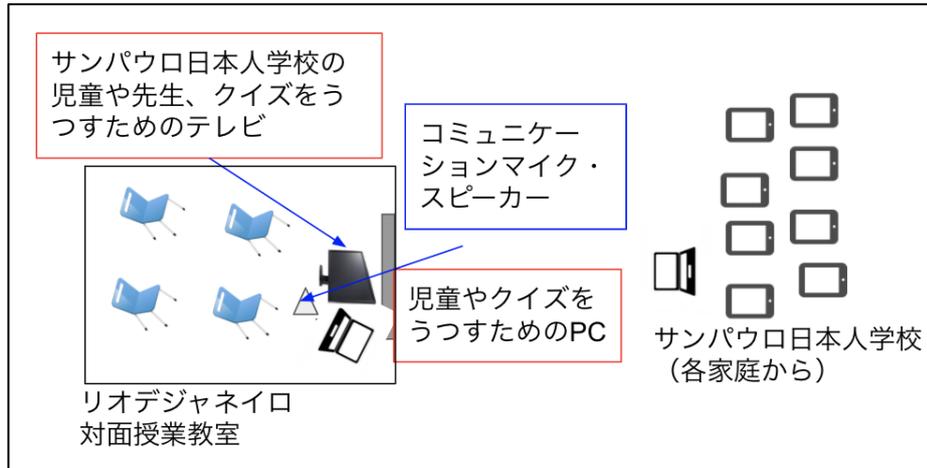
(2021年度)

- ・2020年度と同じ課題について
- 2020年度はインターネット回線の整備が不十分で、各教室1台の端末で遠隔授業に接続していたが、2021年度は体育館や理科室、音楽室等の特別教室も使えるし、普通教室のインターネット接続環境も改善されたため、グループに別れる時は、できるだけ離れた教室を使用し、一つの教室で個別に接続することができた。
- ・一斉に全員がzoomのブレイクアウトルームを3～5のグループに分かれるときに、グループ分けに時間がかかる。
- 複数の教員が担当する授業では、有料アカウントのホストで授業を開始した教員が、他の教員を「共同ホスト」にすることで、グループ分けを複数人ですることができ、教員の人数に余裕がある場合は、授業の進行役ではない教員がグループ活動の前に割り振っておき、グループ活動の開始と同時にルームに入らせることができた。
- 事前に各自が何グループかを割り振って知らせておき、各自が任意のグループに参加できるように設定しておく。こうすると、自分でそのグループに入ることができ、間違ってもグループを退出して、正しいグループに入り直すことができた。

⑥SP・RJ 低学年部会合同授業（対面授業とオンライン授業を接続）

（2020 年度）

＜配置図＞



＜課題と対策＞

- ・児童発表用に iPad を 1 台、zoom に接続しようと考えたが、ハウリングしたためできなかった。
- 教室の前のノートパソコンのところまで行って、児童が発表した。
1 人 1 台の iPad を机に用意できるように工夫したい。
- ・マスクをつけているので、声が聞こえにくく、表情が分かりづらい。

（2021 年度）

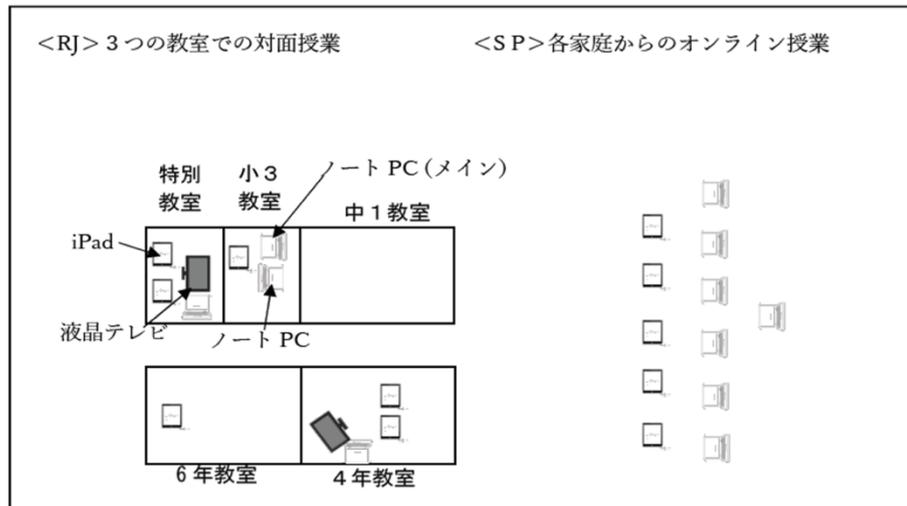
＜課題と対策＞

- 児童発表用に iPad を 1 人 1 台、オーディオなしで接続し、発表の声はマイク・スピーカーシステムをつなぐことができた。発表する時には、自分の iPad の画面を共有してみんなに見せることができた。
- マスクをつけていることで声が聞こえにくく表情は分かりにくいですが、大きめの声で発表したり、画面や手描きの絵や字を相手に見せたり、表情や動作で表現したりして、相手にどう伝わるかを考えたコミュニケーションの仕方を工夫できた。

⑦SP・RJ 高学年部会合同授業

（2020 年度）（4 つの教室とオンライン授業を接続）

＜配置図＞



<課題と対策>

- ・ 1人1台の iPad を使いたかったが、インターネット回線状況が悪く、つながらなかったり、途中で接続が切れたりすることがあった。
→できるだけ、インターネット回線の負荷を下げるために、1教室1台だけを zoom に接続した。
- ・ 多くの iPad や PC を1つの教室で zoom に接続すると、ハウリングを起こしやすい。
→教室で1台だけは、オーディオを接続し、他はオーディオ接続しないようにすると、ハウリングはあまり起こらなかった。

(2021年度) (本校の3つの教室とサンパウロ日学の教室を接続)

- 本校は、2021年度にインターネット回線を増設し、WiFi のアクセスポイントを高性能なものに変えて増設し、ルーターとスイッチングハブを高性能なものに換え、LAN ケーブルをカテゴリ6にしたことで、児童全員が1人1台の iPad で接続するとともに教員用 PC を接続することができた。
- 体育館や音楽室でもインターネット接続できるようになったので、できるだけ他のグループの声の影響が少ないように離れた教室を使用できた。
- ・ 相手校のインターネット回線がよく切れたり、つながらなかったりした。
→相手校のインターネット回線の負荷を下げるために、本校は1教室1端末での接続にした。それでもつながりにくいこともあった。
- ・ サンパウロ日学にサンバダンサーの方を迎えて、音楽室で液晶プロジェクターを使って授業をしようとしたが、急に停電で使えなくなってしまった。インターネットに接続もできなくなってしまった。
→スマートフォンのテザリングを利用してノートパソコンをインターネットに接続し、相手校とつながることができた。小さいモニターを見ながら、サンバダンサーの方の話を聞いたり踊りを見たりすることができた。

⑧SP・RJ 中学校部会合同授業 (本校の1教室とサンパウロの中学教室2つを接続)

(2021年度)



<課題と対策>

- ・ 相手校の教室の声が聞き取りにくい。教室の様子や発表者が見えにくい。
→生徒が iPad で共有された資料を見たり、作業をしていると、相手校の様子が分からないので、相手校の様子を映す液晶テレビを準備した。そうすることで、資料提示や作業中も様子を見ることができた。

⑨最近、遠隔授業に使った機器のレイアウト

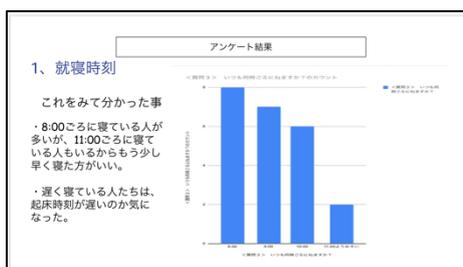
- 広角度カメラで児童生徒の様子を斜め後ろから写す場合と教員の横など斜め前から児童生徒の顔を写す場合がある。斜め前から写すことで、児童生徒の表情や作業の様子がよく分かる。
- 液晶テレビに、相手校の教室の様子を映しておくともよく分かる。
- 児童生徒は、1人1台の端末でオーディオなしでビデオ接続する。
- 教員用パソコンにマイク・スピーカーシステムを接続し、遠隔授業にオーディオ接続することで、教室の音を拾い、ハウリングなく大きな音で再生することができる。
- 教員は、スタンドにセットした iPad を USB 接続し、手元の資料を写したり、Apple Pencil でノートのように書き込んだり、iPad のアプリの画面を映したりしたものを画面共有で、児童生徒の端末に表示することができる。
- 教員用パソコンに拡張ディスプレイとして液晶ディスプレイを HDMI で接続して使うことができる。たくさんの参加者いる時の管理や人を表示する以外の資料を提示しておくこともできる。
- 教員用パソコンにも web カメラを取り付けることで、より鮮明な画像で写したり、パソコンの角度を変えずにカメラの角度を変えることもできる。

いろいろな形態での遠隔教育
(ICT機器の配置や使い方の工夫)

このようなICT機器を使い、3部屋以上で遠隔授業を行う場合がある。

- このように ICT 機器を設置した教室を 3～5 つ使って、それぞれのグループでの活動をしたり、一斉指導をしたりすることもできた。
- 遠隔授業を続けていく中で、教員も児童生徒も準備や片付けに慣れ、トラブルが減り、有効な使い方の工夫が見られるようになってきた。

- ## ⑩同時遠隔授業以外の遠隔合同授業
- リアルタイムでつながるだけでなく、ファイルを送り、アンケートに答えてもらったり、発表を見たり聞いたりしてもらい、意見や感想をもらうなどの実践も増えてきた。



7. まとめ

本年度は、AG5（高度グローバル人材育成拠点事業）のテーマ6「ICTを活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」についての研究の最終年度となり、遠隔教育の研究実践を続けていくことと共に、今までの研究をまとめることや発表することに重点をおいた。

昨年度末の課題としていた「子どもも教員も、もっと人間関係づくりが必要である」「相手に言う側の体験はできたが、みんなの話をまとめる側の体験は不十分である」「合同授業での活動が、調べて、まとめて、発表する活動で終わっている」「協働する場面づくりが不十分ではないか」などについては、今年度は4月からサンパウロ日本人学校と合同研修会を開き、低学年部会、高学年部会、中学校部会で話し合い、遠隔合同授業を計画的に多くの回数取り組むことができたため、両校の子どもたちが親しくなり、話し合いが活発にでき、協働する活動にも取り組むことができた。

AG5事務局や研究チームのサポートにより、3年間の研究成果をAG5のwebページや研究発表会、遠隔合同授業「知恵の蔵」（パターンランゲージ）、報告書、研究冊子などにまとめることができた。

8. 次年度の計画

3年間の研究実践の成果を土台に、遠隔合同授業を継続して日常的に実施していきたい。サンパウロ日本人学校だけでなく、マナウス日本人学校など他の日本人学校にも広げていきたい。また、日本の小中学校などとも交流をしていきたい。また、お互いに話し合う内容や協働する活動を、子どもたちが考え実行できるように、環境を整え指導していきたい。

- ・サンパウロ日本人学校との遠隔合同授業
- ・マナウス日本人学校との遠隔合同授業
- ・リオデジャネイロ日本語モデル校との交流会
- ・リオデジャネイロ連邦大学との交流会

9. 所感

今年度は、2019年度から始まったICTを活用した遠隔教育に関する研究の最終年度であり、3年間で振り返ることが多かった。

2019年度の当初に、校長と研究主任がサンパウロ日本人学校に行き、研究について話し合った。本校は「プログラミング教育」を、サンパウロ日学は「道徳教育」を中心にして、それを擦り合わせながら、遠隔教育（遠隔授業、遠隔研修）に取り組むことになった。3年目までの計画は立てたものの、どのように進んでいったらよいかわからないことだらけだった。

「遠隔教育って何？」から始まり、とりあえず職員室を遠隔でつないでみると、いろいろな課題が見つかり、どうしようか話し合ったり、4校合同研修で教えてもらったりしながら、研究を進めていった。その年には、プログラミング教育についての合同教員研修や、中学生と小学5年生のプログラミング合同授業を何回か行った。また、道徳教育の合同研究授業を行った。本校児童生徒全員が総合的な学習の時間に取り組んだ「リオデジャネイロ3択クイズ」をサンパウロ日学の小学5年生に見てもらってコメントをもらい、改善をして発表するなどの交流もした。

2020年度の前半は、コロナ禍のため、本校では全員がオンライン授業だった。これは、前年度の研究が活かされた。また、たくさんの遠隔授業を行ったことで、多くの課題に直面し、それを解決していく中で、遠隔授業についての様々なノウハウを蓄積することができた。また、2学期にサンパウロ日学と合同研究主題「多様性を受け入れ、柔軟で豊かなコミュニケーション力を持ち、協働できる子どもの育成」を設定し、3つの部会で研究授業を行うことができた。

そして、2021年度は、4月からサンパウロ日学と3つの部会で取り組み、研究授業だけでなく多くの遠隔合同授業を行うことができた。学校行事や日頃の授業においてもオンラインでつながることが多くなり、遠隔授業が日常化してきた。

子どもたちもICT機器を使いこなし、遠隔で他の人とつながることに慣れるとともに、日頃の授業においても、相手の立場に立って考えたり、一緒に活動することについて考えたりするようになってきた。

日本でも、世界でも、このコロナ禍の影響で、一気に遠隔で他の人とつながり、話し合い、一緒に活動することが増えてきた。距離や時間の壁を超えて、しっかりと足を地につけながらも、世界のこと、地球のことに目をむけ、行動できる「高度グローバル人材」の育成が求められている。そのために、ICTを活用した遠隔教育をこれからも進めていきたい。

また、教員自身も、遠隔教育について、研究を拡げ深めて、高度グローバル人材として他から求められ、子どもたちと一緒に活動できるようになっていきたい。それが、これからの日本人学校に求められるところではないだろうか。

この3年間の研究を支えていただいたAG5事務局、研究チーム、研究協力校の皆さん、そしてとても頑張ってくれた子どもたちに感謝するとともに、この研究の成果が少しでも他校の取り組みの参考になることを願っている。

来年度からも、遠隔教育を「続け」「拡げ」「深め」ていきたい。